

長野県埋蔵文化財センター年報26

2009

財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター







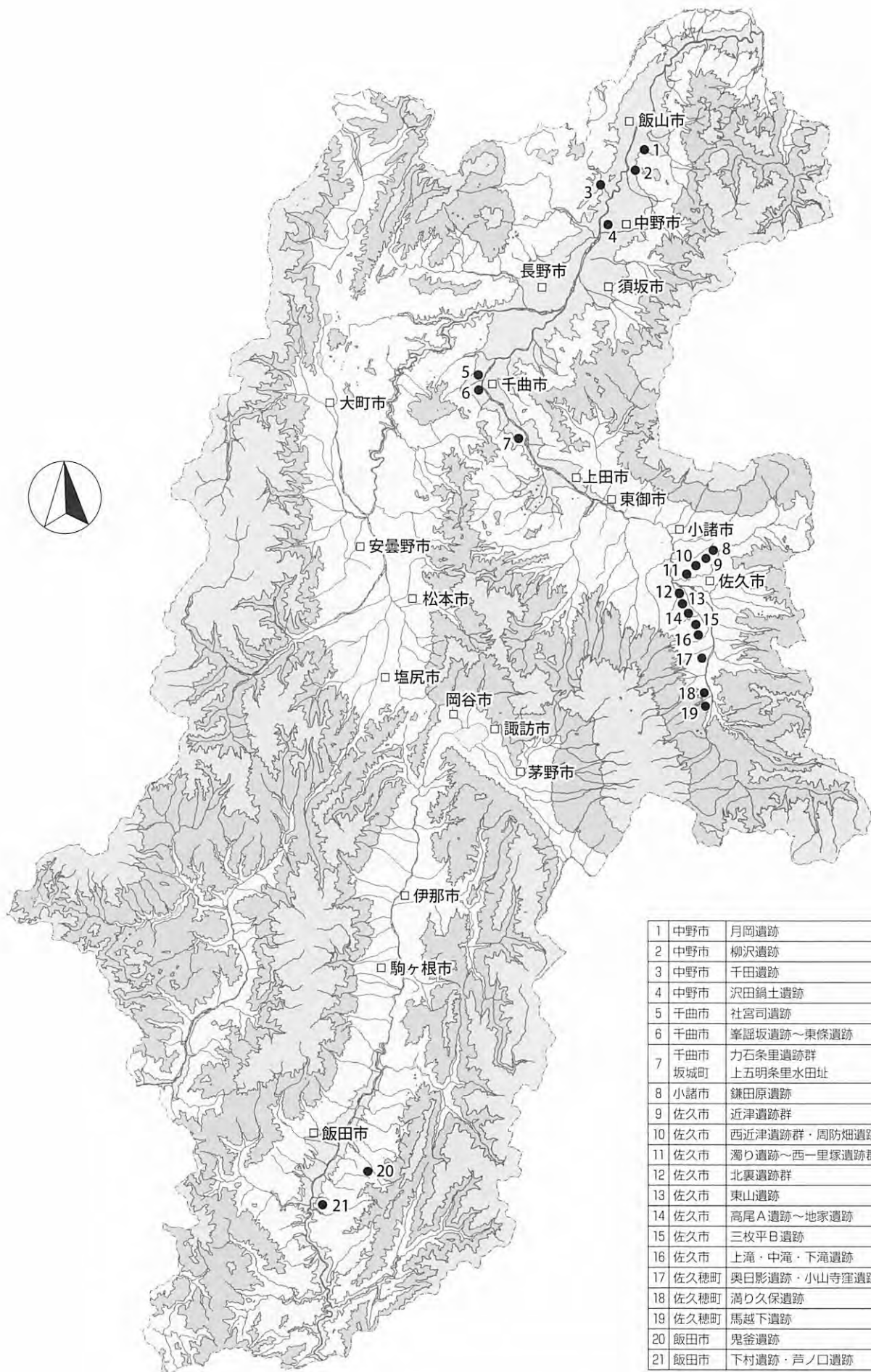
目 次

□絵写真

- ・佐久市 西一里塚遺跡群 土偶形容器
- ・佐久市 西近津遺跡群 「美濃国」刻印土器
- ・佐久穂町 小山寺窪遺跡 人形木製品
- ・佐久市 地家遺跡 「石井寺」と書かれた墨書土器
- ・佐久市 地家遺跡 板碑

目 次

I	2009年度の埋蔵文化財センター……………	1	IV	普及公開活動の概要……………	
			(1)	展示会 講演会……………	31
II	発掘作業の概要……………	2	(2)	現地見学会……………	32
(1)	沢田鍋土遺跡……………	3	V	研修、資料調査などの概要……………	33
(2)	上五明条里水田址……………	6	(1)	講師招聘などによる指導……………	33
(3)	鎌田原遺跡……………	9	(2)	全埋協等への参加……………	34
(4)	近津遺跡群……………	10	(3)	研修および資料調査……………	34
(5)	周防畑遺跡群……………	12	(4)	学会・研修会などでの発表……………	35
(6)	地家遺跡……………	13	(5)	市町村・関係機関などへの協力……………	36
(7)	小山寺窪遺跡……………	16	(6)	学校関係への協力・指導……………	37
(8)	満り久保遺跡……………	18	(7)	資料の貸し出し……………	37
(9)	下村遺跡(鷲ヶ城跡)……………	20			
III	本格整理作業遺跡一覧……………	22	VI	組織・事業の概要……………	39
(1)	柳沢遺跡・千田遺跡……………	23	(1)	組 織……………	
(2)	東條遺跡・峯謡坂遺跡……………	26	(2)	職 員……………	
(3)	力石条里遺跡群……………	27	(3)	事 業……………	
(4)	西一里塚遺跡群……………	28			
(5)	西近津遺跡群……………	29			



1	中野市	月岡遺跡
2	中野市	柳沢遺跡
3	中野市	千田遺跡
4	中野市	沢田鍋土遺跡
5	千曲市	社宮司遺跡
6	千曲市	峯謡坂遺跡～東條遺跡
7	千曲市 坂城町	力石条里遺跡群 上五明条里水田址
8	小諸市	鎌田原遺跡
9	佐久市	近津遺跡群
10	佐久市	西近津遺跡群・周防畑遺跡群
11	佐久市	濁り遺跡～西一里塚遺跡群・森平遺跡
12	佐久市	北裏遺跡群
13	佐久市	東山遺跡
14	佐久市	高尾A遺跡～地家遺跡
15	佐久市	三枚平B遺跡
16	佐久市	上滝・中滝・下滝遺跡
17	佐久穂町	奥日影遺跡・小山寺窪遺跡
18	佐久穂町	満り久保遺跡
19	佐久穂町	馬越下遺跡
20	飯田市	鬼釜遺跡
21	飯田市	下村遺跡・芦ノ口遺跡

図1 平成21年度調査・整理対象遺跡

I 2009年度の事業概要

今年度は6件の開発事業にかかる発掘・整理作業を受託し、速報展等の自主事業を行った。

発掘作業のうち、調査の対象となった遺跡は14か所、総面積77,000㎡である。また、16遺跡の整理作業を進め、報告書は4冊刊行した。事業費総額は644,635千円（対前年度比14%減）である。

以下、発掘成果を中心に時代ごと概観してみる。

■旧石器時代 麦草峠の東、大石川が千曲川に合流する段丘上にある満り久保遺跡（佐久穂町）では、槍先形尖頭器の欠損品や剥片、細石刃核などが出土した。信州産黒曜石については黒曜石フォーラムを中心として継続的な調査研究が行われている。本遺跡は、八ヶ岳北東麓の旧石器時代原産地周辺遺跡として貴重な資料を提供することになった。

■縄文時代 中期中葉の炉体土器を据えた竪穴住居跡がある地家遺跡（佐久市）では、晩期末（弥生前期）の壺形土器も出土した。昭和46年の調査で条痕文系壺形土器と共に人骨や牙状装身具が発見された月明沢岩陰遺跡が本遺跡に北隣している。

■弥生時代 中部横断道関連の市道拡幅に伴い調査した周防畑遺跡群（佐久市）では、箱清水段階の竪穴住居跡2軒を検出した。本遺跡は数次にわたり佐久市教育委員会及び当センターの調査が行われている。浅間山山麓台地の地形環境を踏まえた集落景観の復元が待たれる。

■古墳時代 調査3年目を迎える近津遺跡群（佐久市）では、田切台地上に埋没していた旧地形の状態を把握することができた。佐久市域では数少ない古墳前期の集落は、田切の高位面のみならず低位面に向かう緩斜面にも分布するようだ。県道長野上田線関連の上五明条里水田址（坂城町）は、古墳後期の集落がみついている。出浦沢・小野沢の古墳群や昨年度出土の埴輪との関連が興味深い。

■奈良・平安時代 北陸新幹線関連の沢田鍋土遺跡（中野市）は、8世紀の土器工房跡や粘土採掘坑、土師器焼成遺構など、奈良時代の土器製作に関わる遺構が「井」の刻書須恵器などを伴ってみつかった。昨年調査した立ヶ花表遺跡の須恵器窯跡をはじめ、高丘丘陵一帯に広がる「高井」の古窯址群と密接な関係がありそうだ。上五明条里水田址では、鍛冶関連遺物と共に10世紀代の坏類が大量に出土した大形竪穴住居跡を検出した。周辺

には同時期の土器集積遺構や6個一組の鉄鐸や八稜鏡をもつ住居跡もある。一帯は該期集落の中心部を占めることは間違いない。性格の解明が待たれる。その他、鎌田原遺跡（小諸市）、近津遺跡群、地家遺跡などにも平安時代の小集落がある。

■鎌倉・室町時代 1582（天正10）年に消失した旧長命寺跡と目される地家遺跡では、現二王堂へ続く谷間の傾斜地を平坦に造成して建物を配置し、その西側から北側の傾斜面を墓地に利用するという空間構成が明らかとなった。建物は礎石柱や竪穴が中心だが、今のところ性格はわからない。一方、墓域には鎌倉時代の骨壺を納めた火葬墓のほか土葬墓もあり、板碑や五輪塔が出土している。谷間を流下する溝には人形や下駄などの木製品が廃棄されたようだ。人形は小山寺窪遺跡（佐久穂町）でもみついている。角柱状の木片に烏帽子を刻んだ4体で、ひとつの土坑からまとまって出土した。集落の家屋は、3×3間庇付きの掘立柱建物や床中央に火床を設けた竪穴建物などいたって平凡だが、深さ1mを越える薬研堀が横断し、遺跡の理解を難しくしている。

■戦国時代 三遠南信道に関わる竜東の鶯ヶ城跡（飯田市）では郭部分の調査を行った。尾根を東西に分断する空堀により主郭と二郭で構成されていたことはわかったが、肝心の遺構面は削平されていた。城郭南側の切岸下に築城以前の墓地がある。

銅戈・銅鐸を発見した柳沢遺跡（中野市）では、本年度から本格的な整理作業を始めた。青銅器埋納坑の北にある礫床木棺墓群は、構造や出土遺物の分析から、銅戈・銅鐸と密接な関係をもつ可能性が高まった。同じく、本格整理を開始した西近津遺跡群（佐久市）では、律令時代の集落の性格を考究する新たな資料として、県内8例目の「美濃国」刻印須恵器が加わった。

報告書は、全国的な注目を集めている竹佐中原遺跡（飯田市）旧石器時代編をはじめ、社宮司遺跡（千曲市）六角木幢保存修復編、月岡遺跡（中野市）、川路大明神原遺跡（飯田市）を刊行した。

その他自主事業として、新たに考古学チャレンジ教室を開いた。夏休み期間中、勾玉作りや拓本に挑む子供たちの真剣な眼差しが印象深かった。

II 発掘調査の概要

遺跡名	場所	事業名	面積(m ²)	調査期間	時代・内容	主な遺物
さわだかねべつら 沢田鍋土	中野市	北陸新幹線	7,346	4月16日～ 9月30日	縄文時代：粘土採掘坑 奈良時代：堅穴住居跡(工房跡)、溝跡、土坑、土師器焼成遺構、粘土採掘坑 中世：粘土採掘坑 不明：掘立住建物跡、焼土跡	旧石器時代：石器(ナイフ形石器) 縄文時代：土器、石器(石鏃) 奈良時代：土師器、須恵器、その他(窯壁破片) 中世：内耳土器 近世以降?：金属製品(鉄鏃、鉄釘) 不明：木製品(杭)
かみごみょうじょう 上五明条 りすいでんし 里水田址	坂城町	長野上田線 力石バイパス	1,654	4月3日～ 7月22日	古墳時代：堅穴住居跡、掘立柱建物跡 平安時代：堅穴住居跡、畝跡 古代：溝跡、焼土跡 中世：土坑	古墳時代：土師器坏・甕、須恵器坏、石製品(白玉) 平安時代：土師器甕・坏・羽釜、須恵器坏・甕、灰釉陶器、緑釉陶器、転用硯、金属製品(刀子、釘、青銅製品)
かまたばら 鎌田原	小諸市大字 御影新田	中部横断 自動車道	4,360	9月30日～ 11月4日	平安時代：堅穴住居跡 時期不明：土坑	平安時代：土師器、鉄製品
ちかつ 近津	佐久市長土呂	中部横断 自動車道	8,540	4月6日～ 12月21日	古墳時代：堅穴住居跡、堅穴状遺構 平安時代：堅穴住居跡	縄文時代：土器、石器(打製石斧、石鏃) 古墳時代：土器、石器(砥石、管玉) 中世：金属器(銭貨、不明鉄製品)
すぼう畑 周防畑	佐久市長土呂		2,550	9月14日～ 12月21日	弥生時代：堅穴住居跡、掘立柱建物、土坑、小穴	縄文～弥生時代：土器・石器
きたうら 北裏	佐久市伴野		300 (確認調査)	4月14日～ 5月11日		縄文～弥生時代：土器・石器
ひがしやま 東山	佐久市伴野		13,820	4月3日～ 10月2日	中世：溝跡	旧石器時代：槍先形尖頭器 縄文時代：土器、石器 弥生時代：土器 中・近世：陶磁器
たかお 高尾A	佐久市前山		7,170 (確認調査)	5月1日～ 8月5日	旧石器時代 時期不明：土坑	旧石器時代：台形石器
げつめいざいわかげ 月明沢岩陰	佐久市大沢		400 (確認調査)	H22年 3月8日～ 3月26日	弥生時代：岩陰	なし
じけ 地家	佐久市大沢		6,300	4月13日～ 12月21日	縄文時代：堅穴住居跡 縄文～中世時代：土坑 弥生時代：方形周溝墓 平安時代：堅穴住居跡 古代～中近世：焼土跡 中世：堅穴状遺構、礎石建物跡	縄文時代：土器・陶器(深鉢)、石器・石製品(石鏃、打製石斧、剥片) 縄文～弥生時代：土器・陶器(鉢、甕)、弥生時代：土器・陶器(甕、壺) 奈良～平安時代：土器・陶器(杯、椀、甕、壺、鉢、蓋)、金属器(刀、鉄滓) 中世時代：土器・陶器(古瀬戸、美濃須衛、かわらけ、内耳鍋)、石器・石製品(板碑、五輪塔、石鏃)、金属器(銭貨、鉄釘、鉄滓ほか)、木製品(下駄、板状木製品、ほか)、骨(人骨)
さんまいびら 三枚平B	佐久市湯原		900 (確認調査)	7月13日～ 8月11日		
こやまでらくほ 小山寺窪	佐久穂町 高野町		13,610	4月6日～ 12月8日	古代：堅穴建物・住居跡 古代～中世：掘立柱建物跡、土坑(柱穴群、欄列を含む)、溝跡	古代：土師器、須恵器 中世：陶磁器、木製品
まみりくほ 満り久保	佐久穂町畑		6,250	9月1日～ 12月10日	旧石器時代：ブロック 時期不明：溝跡	旧石器時代：石器(槍先形尖頭器、細石刃核)
しもむら 下村	飯田市千栄	飯喬道路	3,800	4月13日～ 7月28日	中世：堀跡、土坑、墓坑	中世：瀬戸美濃皿、内耳土器、近世以降：陶磁器、金属器(煙管)
きたうら 北裏	佐久市伴野	中部横断 自動車道	表土剥ぎ	H22年 3月1日～ 3月31日		
かみなき 上滝・ なかたき 中滝・下滝	佐久市湯原	中部横断 自動車道	表土剥ぎ	H22年 3月8日～ 3月26日		
おくひかげ 奥日影	佐久穂町 高野町	中部横断 自動車道	表土剥ぎ	H22年 3月1日～ 3月31日		
まごよした 馬越下	佐久穂町 大字千代里	中部横断 自動車道	表土剥ぎ	H22年 3月8日～ 3月26日		

さわだなべつち (1) 沢田鍋土遺跡

(北陸新幹線施設建設関連)

所在地及び交通案内：中野市大字立ヶ花字鍋土
 上信越自動車道中野ICから立ヶ花橋方面に向
 かって最初の角を左折し、上信越自動車道沿に
 長野方面へ約500mの地点。

遺跡の立地環境：千曲川と篠井川が合流する高丘
 丘陵の東向き斜面。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
21. 4. 16～9. 30	7,346㎡	鶴田典昭、白沢勝彦 賛田 明、大沢泰智

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡（工房跡）	6	奈良
掘立柱建物跡	1	不明
溝跡	31	奈良、近世以降
土坑	105	奈良、近世以降
土師器焼成遺構	3	奈良
焼土跡	1	不明
粘土採掘坑	23	縄文中・後期、奈良、中世

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文中・後期（深鉢）、奈良（土師器甕・坏、 須恵器坏）、中世（内耳土器）
石器	旧石器（ナイフ形石器） 縄文（石鏃、打製石斧）
金属製品	近世以降？（鉄鎌、鉄釘）
木製品	不明（杭）
その他	奈良（窯壁破片）

奈良時代の土器工房跡

今年度は②～⑤区の調査を実施した（図3）。
 このうち、③・⑤区は攪乱・削平の影響を受けて
 おり、隣接する昨年度調査区の①区と合わせて遺

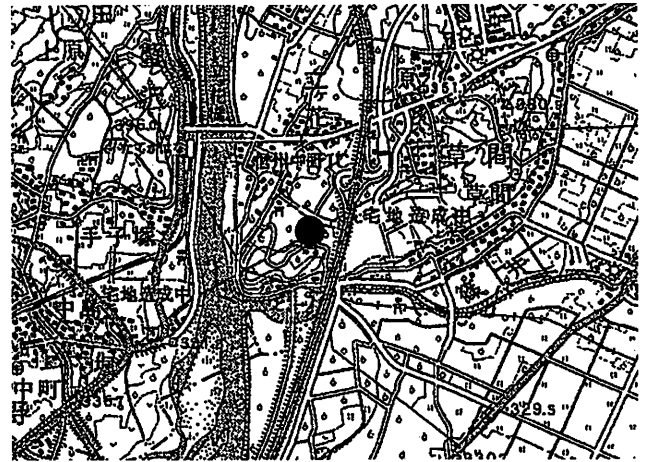


図2 沢田鍋土遺跡の位置（1：50,000中野）

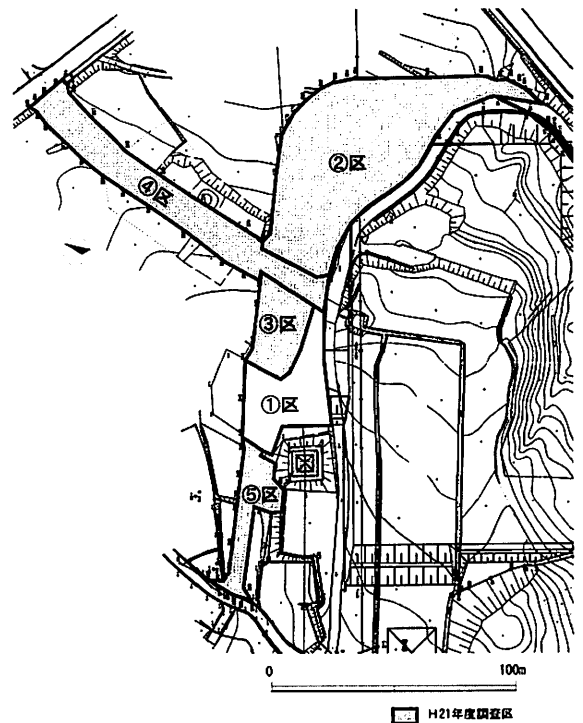


図3 調査区の位置と範囲

構・遺物は既に残存していない状況が明らかと
 なった。

②区では奈良時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、
 溝跡、土坑、土師器焼成遺構、粘土採掘坑を検出
 した。遺構は調査区の中央部に広がる粘土採掘坑
 から東側の範囲に多く分布し、調査区外の北～東
 側へとさらに続くようである。粘土採掘坑は奈良
 時代の竪穴住居跡と重複し、縄文時代中・後期の
 土器、中世の内耳土器が出土するなど、奈良時代
 以外の時期にも粘土が採掘された可能性がある。

④区は狭い範囲の調査ではあったが、粘土採掘
 坑と土坑を検出しており、調査区の北端に位置す

る粘土採掘坑からは、奈良時代に帰属する数個体分の土師器甕の破片が出土した。

竪穴住居跡と付属する溝跡 ②区で検出された4軒の竪穴住居跡は、それぞれ弧状の溝跡に囲まれていた(図5)。竪穴住居跡に溝跡が付属するような状況がみられることから、竪穴住居跡と弧状の溝跡は一体で機能し、弧状の溝跡は竪穴住居跡の付属施設であったと推測される。

土器工房跡 6軒中、5軒は床面中央に炭・焼土が広がり、粘土塊が出土し、ロクロピットやオンドル状施設が付属するなど、通常の竪穴住居跡と異なるいくつかの特徴をもつ。須恵器の工房跡とされる竪穴住居跡に、共通した特徴を備えている。沢田鍋土遺跡では、土師器焼成遺構が検出されているので、工房跡では須恵器とともに土師器も製作された可能性があろう。工房跡には切り合いが認められることから、須恵器と土師器はある程度の期間にわたり製作されたといえる。残る1軒は小形で、上記のような特徴はみられないが、工房跡と同一範囲に分布するなど、工房跡との関係を検討していく必要がある。



図4 工房跡と考えられる竪穴住居跡(SB103)

SB103は工房跡の良好な事例である(図4)。東壁の一部が調査区外へと延びるが長軸6m、短軸5mほどの規模で隅丸長方形を呈する。東・南・西壁際には幅広の周溝が廻り、北側は壁際ではなくカマドの南側を通過する。カマドは北壁中央にあり(図4手前)、底面には土師器の甕の破片が敷かれていた(図6)。破片の下部は溝が掘り込まれ、カマドの南側を廻る周溝と連結することから、周溝とカマドはオンドル状の施設を構成していたと考えられる。南壁付近に位置する2基の柱穴脇には円形で直径30~40cm、深さ30~50cm、



図5 弧状の溝跡に囲まれた竪穴住居跡



図6 甕の破片が敷かれたカマド（S B103）

断面形状がロート状を呈するロクロピットがあり、そのうち1基はピット上部の壁に、土師器の小破片が貼り付けられていた。床面は、ほぼ中央に80cm×60cmの範囲で焼土が広がる。住居の北西コーナー付近と南西コーナー付近では、粘土塊が出土しており、周辺の粘土採掘坑（図7）で採取されたものが持ち込まれたと思われる。S B103は粘土を採掘坑から採取し、ロクロで須恵器や土師器を製作した工房跡の可能性が高く、オンドル状の施設も例えば乾燥など、製作に関わる何らかの施設と推測しておきたい。

広がる粘土採掘坑 ②区の粘土採掘坑はアメーバー状に広がり、面積は約836㎡を測る（図7）。掘削された粘土層の深さは平均20cmで、概ね167㎡の粘土が採掘されたと推定される。採掘坑の底面には大小の不整円形・楕円形を呈する掘り込みが集合する部分と、掘り込みがあまり認められない部分があり、場所により掘り方が異なる。この違いは採掘方法の違いや、冒頭で述べたように採掘時期の違いといった可能性が考えられる。

沢田鍋土遺跡が位置する高丘丘陵は、「高井郡」における須恵器生産・供給の拠点で、7世紀後葉から9世紀末葉に所属する須恵器の窯跡が約50基確認されている。今年度の調査で、その一画から粘土採掘坑と土器工房跡と推測される遺構が検出された意義は大きい。沢田鍋土遺跡は周辺の須恵器窯跡とともに評価されるべきで、工房跡と粘土採掘坑・土師器焼成遺構・須恵器窯跡の関係を検討するにあたり重要な遺跡となろう。

来年度は、報告書刊行に向けた本格的整理作業に着手する予定である。



図7 ②区に広がる粘土採掘坑

かみごみょうじょうりすいでんし
(2) 上五明条里水田址

(県道長野上田線力石バイパス関連)

所在地及び交通案内：坂城町上五明字中村

県道長野上田線を村上交差点から長野方面へ約
 500m向かった北西側

遺跡の立地環境：千曲川左岸の沖積地

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
21.4.3～7.22	1,654㎡	西 香子 寺内貴美子 鈴木時夫

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	39	古墳 平安
掘立柱建物跡	2	古墳
溝跡	7	古墳～古代
土坑	195	古墳～中世
畝跡	2	平安
焼土跡	10	古墳～古代



図8 上五明条里水田址の位置 (1:50,000坂城)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・土製品	古墳(土師器坏・甕、須恵器坏)、平安(土師器甕・坏・羽釜、須恵器坏・甕、灰釉陶器、緑釉陶器、転用硯)
金属製品	平安(刀子、釘、青銅製品)
石製品	古墳(白玉) 平安(玉・砥石)

密集する集落跡

発掘調査の最終年となった今年度は、調査区の南東端で力石バイパスが県道長野上田線に接する④b・c区で平安時代と古墳時代の調査を実施した。

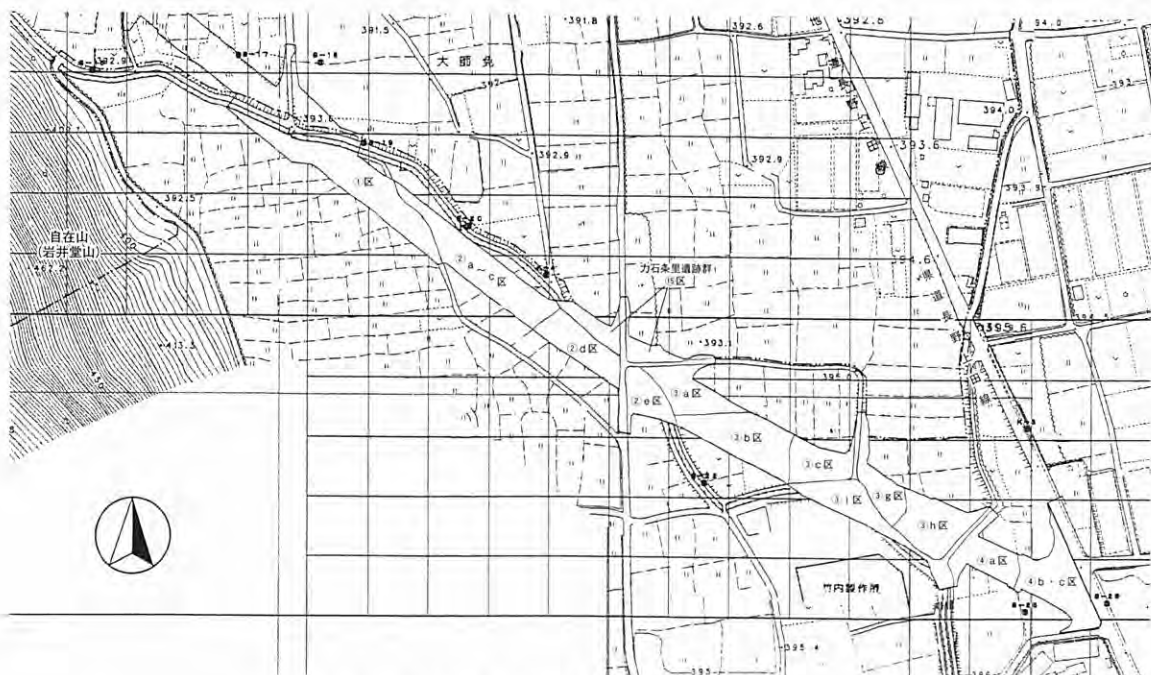


図9 上五明条里水田址調査区 (1:5,000)

平安時代

後世の盛土もあって地表から3m以上深い所が調査面となった。そのため掘削する土の量が多く、その置場・運搬に難儀する調査となった。

平成19年度に調査した隣接する④a区の平安時代(10世紀後半～11世紀初頭)の集落につづく遺構が調査区全域で検出され、竪穴住居跡は14軒みつかった。

これまでの調査で竪穴住居跡は一辺4～5m前後のものが多いなか、東西7.1m×南北9.3mの大形住居跡が検出された(図10)。この住居跡の覆土からは非常に多量の土器片が出土した。土師器坏などを中心に、須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器などがみつまっている。さらに柱穴などの付属施設からも多くの土器が出土し(図12)、大形住居跡出土の土器を収納する箱数は30箱を超えた。これは、今年度出土したすべての土器の量の約半分を

占めている。

また鉄製品や鉄滓・羽口などの鍛冶関連遺物がこの住居跡を含め周辺の遺構から出土しているが、大形住居跡内から鍛冶炉跡が1基みつかり(図11)、ここで鉄製品の製作が行われていたことが分かった。

この他に、土師器坏などが集中している箇所が、調査区の中央に近い場所でみつかった(図13)。全部で5か所検出されたが、出土位置に規則性はみられなかった。いずれも明確な掘りこみは確認できなかったが、合わせ口状態で出土したものもあった。出土した土器の数は、多い所で20個体分以上が出土している。

10世紀後半～11世紀初頭の竪穴住居跡や土坑は、④区の外に②a～d・e区と③b・c・g・i区から、平成19・20年度の調査でみつまっている。この時期の比較的大きな集落が自在山(岩井堂山)の麓に広がっていたことが推察される。



図10 平安時代の大型住居跡



図11 鍛冶炉跡



図12 大型住居跡柱穴の土器出土状況



図13 土器集中

古墳時代

平安時代の集落が検出された面より下層からは古墳時代（6世紀頃）の遺構が検出され、調査区全域から竪穴住居跡17軒や土坑などがみつかった。

カマドが残っている竪穴住居跡では、北東側壁の中央付近に設置されていることが多い。また、平安時代のカマドで使用されている礫と比べ、大

ぶりで扁平な円礫を使用している様子も確認された。

この時期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡は、平成19・20年度に調査した③b・c・i区でも確認されており、調査区の南東に古墳時代の集落が集中していたと考えられる。



図14 竪穴住居跡



図15 土器出土状況



図16 自在山の麓を通るバイパス予定地

かまたはら (3) 鎌田原遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：小諸市御影新田

上信越自動車道佐久ICの北西1.5km。国道141号線東側の佐久市境。

遺跡の立地環境：浅間山麓に広がる火砕流台地上に立地。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
21.9.30~11.4	4,360㎡	大竹憲昭・櫻井秀雄 寺澤政俊・清水梨代・大沢泰智

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	3	平安
土坑	2	時期不明

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	平安(土師器)
鉄製品	平安(不明)

平安時代の小集落跡

本遺跡は平成13・14年度にも計9,800㎡の発掘調査を実施しており、今回は、前回調査区の南西約500m離れた4,360㎡が調査対象となった。

まず、重機により幅約2mのトレンチを基本的に4m間隔で掘削し、遺構を確認した部分を面的に広げるといった調査方法をとった。その結果、平安時代の竪穴住居跡3軒および時期不明の土坑2基を検出、調査を行なった。竪穴住居跡は3軒とも南東コーナーにカマドが構築されたものであり、平安時代でも後期に位置づけられる。

平成13・14年度の調査区では、10軒の竪穴住居跡を調査したが、古墳時代前期のもの8軒と古墳時代後期のもの2軒であり、今回調査した住居跡

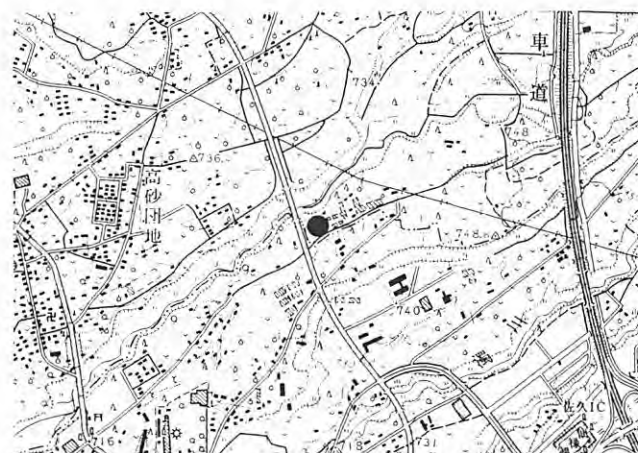


図17 鎌田原遺跡の位置(1:50,000小諸)

とは時期が異なる。

コーナーにカマドを構築する平安時代後期の住居跡は、この佐久市近津遺跡群の本遺跡寄りの調査区からも検出されている。行政区域が異なるため、別遺跡名となっはいるが、佐久市近津遺跡群とは同じ田切り台地上に立地し、西に隣接する。本来は一連の遺跡と理解できるため、距離の離れている前回調査区よりは、むしろこちらとの関連性の方が強いと考えられる。

なお、前回調査区と今回の調査区の間にある産廃処理場及び民間会社の倉庫部分についてはその建設に先立ち、小諸市教育委員会による試掘調査が実施されているが、遺構は確認されていない。

計3カ年に及ぶ発掘調査により、古墳時代前期・後期、平安時代の住居跡が検出されたが、そのいずれの時期も、散在する小規模な集落跡であることが理解できる。



図18 平安時代 住居跡のカマド

(4) ちかつ いせきぐん 近津遺跡群

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市長土呂

上信越自動車道佐久ICの北西1.5km。国道141号西側の小諸市境。

遺跡の立地環境：浅間山麓に広がる火砕流台地上に立地し、湧玉川わくたまがわによる田切りに面する。

発掘期間等 () 内は総計

調査期間	調査面積	調査担当者
21.4.6~12.21	8,540㎡ (38,300㎡)	廣瀬昭弘 寺澤政俊 清水梨代

検出遺構 () 内は総計

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	23 (46)	古墳前期 平安
竪穴状遺構	3 (4)	古墳前期ほか
土坑	7 (36)	
焼土跡	6 (8)	

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器類	縄文(早・中期)、古墳(甕・壺・高坏・台付甕など)、平安(羽釜など)
石器類	打製石斧、石鏃、砥石、管玉
金属器類	銭貨、不明鉄製品



図20 上空から見た近津遺跡群 (西から)

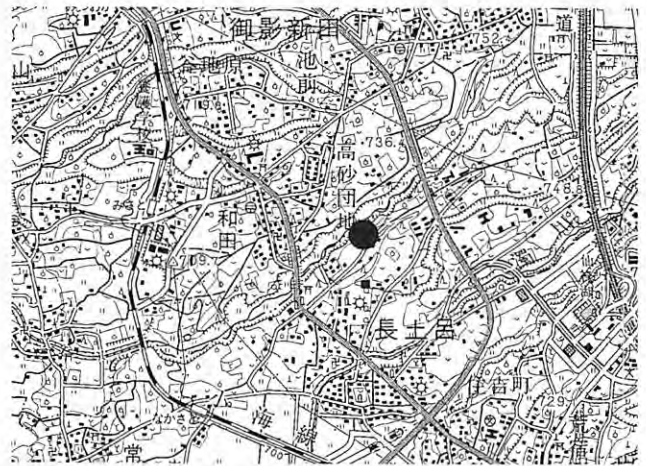


図19 近津遺跡群の位置 (1:50,000小諸)

田切りの縁に造られた古墳前期の村

浅間山の裾野には厚い軽石流堆積物に覆われた火砕流台地が小諸市・御代田町から佐久市北部にかけて広がっている。この台地は河川の浸食により10mを超す崖をつくり田切り地形を発達させている。

火砕流台地の末端付近にあたる佐久市長土呂地区には弥生時代後期から古墳・平安時代にかけての遺跡が数多く分布している。近津遺跡群もこうした遺跡群の一つで、北側を湧玉川の田切り崖、南側を浅い田切り谷に画された北東から南西へ細長い台地上に広がる。

近津遺跡群の調査は湧玉川の田切りに沿った延長700m程の台地縁辺部が調査対象となり、調査は平成19年度からの継続で、今年度で調査対象地全ての調査が終了した(第22図上)。

近津遺跡群は今までの調査や佐久市教委による周辺部の調査により、古墳時代前期・平安時代後期を主体とした集落跡であることが明らかにされてきた。今年度の調査でも、この遺跡の特徴が裏付けられた(第22図下)。

古墳時代前期の遺構は、今年度17軒の竪穴住居跡、1基の竪穴状遺構などが検出され、住居跡は総計で29軒となった。遺構は調査区の中央から西側の5~7区に多く、特に今年度調査の6・7区の高位面から埋没田切の低位面に向かう緩斜面にまとまる傾向がうかがえる。住居跡に重複はみられないものの非常に近接したものもあり、ある程

度の時間差が想定される。

この時期の住居跡には床面に炭化材が残されたものが多い。炭化材は上屋構造を示している状況ではなく、住居廃絶時に上屋を壊して火をかけたものかもしれない。

平安時代の遺構は調査区内に散漫に認められ、今年度の調査では高位面の5区で5軒の住居跡が検出された。殆どが南東コーナーにカマドを構築するもので、今まで検出されていた該期の住居跡と同じ構造を示している。

近津遺跡群の古墳前期・平安後期を主体とした集落形成は同じ台地上に隣接する西近津遺跡群などの状況とは大きく異なり、西近津遺跡群などで集落が明瞭でなくなる時期に近津遺跡群で集落形成が活発化している。

佐久地域では広い台地上につくられた弥生後期の集落が古墳前期には継続せず、河川や田切りの縁などに分散・小規模化することが知られている。近津遺跡群の調査もこの状況をあらわす好例となろう。一方、平安時代の遺構は類似した住居構造



図21 住居床面の土器と炭化材

を示し、同一時期の遺跡形成の可能性が考えられる。

今後の整理作業において、より詳細な遺跡形成状況が明らかにされ、周辺の遺跡群との関係なども検討されることが期待される。

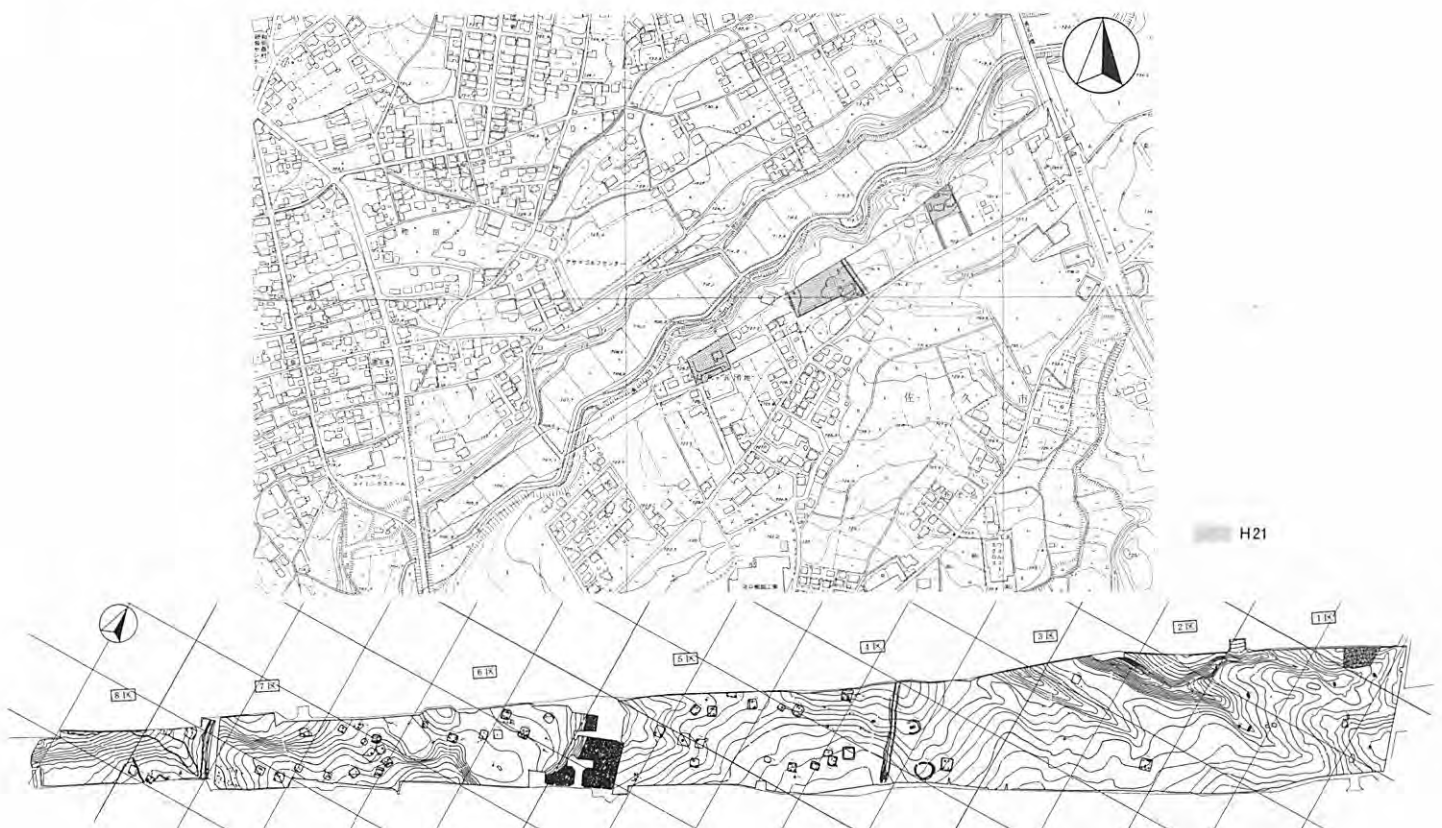


図22 近津遺跡群の調査範囲 (1 : 10,000) と遺跡全体図 (1 : 4,000)

(5) 周防畑遺跡群

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市長土呂

JR 佐久平駅の西方約500m。

遺跡の立地環境：浅間山麓に広がる火砕流台地上
末端から、濁川による氾濫低地に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
21. 9. 14～12. 21	2,550㎡	廣瀬昭弘 鈴木時夫 大沢康智

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	2	弥生後期
掘立柱建物跡	1	
土坑	1	
小穴	7	

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・石器	縄文～弥生

流れ山につくられた弥生後期の住居

周防畑遺跡群は佐久平駅西側に位置する遺跡で、浅間山の火砕流台地の末端から濁川の氾濫低地に



図24 周防畑遺跡群全景（西から）

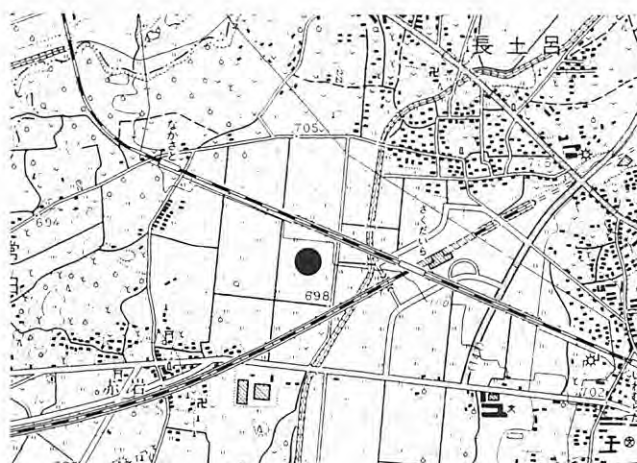


図23 周防畑遺跡群の位置（1：50,000小諸）

かけて広がる遺跡群である。

周防畑遺跡群では平成18・19年度に中部横断自動車道本線部分の調査が当センターによって実施され、JR 小海線北側では弥生後期・平安時代を主体とした集落跡が調査され、今回調査区の西側にあたる小海線南側では弥生後期の住居跡や円形周溝墓などが発見されている。

今年度の調査は東西約200m、南北14m程と細長く、中央部の水路を挟み東西に分かれる。

西側の調査区では、弥生後期の住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟などの遺構が、浅間山の山体崩壊の岩屑ながれによる「流れ山」を基盤とした範囲で検出された。この範囲は、濁川氾濫域の中でもやや高い部分にあたり、弥生後期の遺構は氾濫低地内の微高地やこうした「流れ山」を基盤とした高台を選び住居占地している。

一方、東側の調査区は、両端が「流れ山」の末端にあたり、その間は濁川の氾濫低地になっていることが明らかになり、遺構は存在しなかった。西側の「流れ山」末端では、上部から廃棄された土器が比較的まとまって出土した。

今年度の調査では当時の水田遺構など生産域に関する遺構は明らかにされなかったが、住居などの遺構と地形環境との関係が把握されたことは意義があろう。

(6) ちけいせき 地家遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市大沢地家ほか
国道141号線本新町交差点から西約1.3km。

遺跡の立地環境：野沢地区を見下ろす西から東に向かって伸びる尾根の東向き斜面。標高705～725m。北側の尾根部と南側の谷部とからなる。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
21. 4. 13～12. 21	6,300㎡	中野亮一、若林卓、古賀弘一 藤松慎一郎、賛田明、内堀団

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	9	縄文中期、平安
方形周溝墓	1	弥生後期
竪穴状遺構	1	中世
礎石建物跡	1	中世
溝跡	6	～中近世
焼土址	9	古代～中世
土坑	124	縄文～中近世

旧長命寺の比定地

地家遺跡は、佐久市野沢地区を見下ろす、西から東に向かって伸びる尾根の東向き斜面に立地する。遺跡内の地形は、尾根部と谷部が入り組んでおり、その比高は約20mを測る。

遺跡一帯は旧長命寺の比定地である。『佐久市誌歴史編2 中世』(1993)によれば、長命寺は寛平五年(893 平安時代)に開創された。天正十年(1582 戦国時代)、武田氏滅亡を受けた徳川家康勢力の佐久侵攻に伴う兵火で焼失し、その後、元禄十年(1697 江戸時代)に、遺跡南東約1kmの現在地に再建されたとされている。

発掘調査地の東約100mに、旧長命寺の仁王門跡地に建立したと伝えられる二王堂があり、その



図25 地家遺跡の位置 (1:50,000白田)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶器	縄文中期(深鉢)、縄文晩期～弥生前期(鉢)、弥生中期(甕、壺)、奈良・平安(坏、碗、甕、壺、鉢、蓋) 中世陶磁器(古瀬戸、美濃須衛、かわらけ、内耳鍋)
土製品	平安(鞆羽口)
石器 石製品	縄文(石鏃、打製石斧、剥片)、平安(砥石)、中世(板碑、五輪塔、石鉢)
金属器	奈良・平安(刀子、鉄滓)、中世(銭貨、鉄釘、鉄滓ほか)
木製品	中世(下駄、板状木製品ほか)
骨	中世(人骨)
炭化物	炭化材(中世竪穴状遺構内)

堂中に「応永廿二年乙未七月四日宗阿敬白」の銘文を刻んだ石柱(佐久市有形文化財指定)が納められている。応永二十二年は、1415年(室町時代)にあたる。



図26 石柱が納められている二王堂



図27 斜面に広がる地家遺跡と浅間山（南方向から撮影）

発掘調査の成果

調査は、この旧長命寺跡を確認することを中心課題として行った。調査の結果、調査区北側の尾根頂部から斜面にかけて中世の墓群が確認され、板碑や多数の五輪塔が出土した。また調査区南側の谷部では、中世の竪穴状遺構や礎石建物跡がみつかった。これらは、旧長命寺と関連する可能性が考えられるが、はっきりと寺院を示すような遺構・遺物は、確認できていない。今後の調査に伴う新たな事実等を含めて、検討していく必要がある。その他、縄文時代および平安時代の竪穴住居跡が発見され、古くから居住地として利用されていた時期があったことも判明した。

一帯に広がる中世の遺構

中世墓群は、尾根頂部から斜面にかけてみつまっている。墓の中からは人骨の他、副葬された銭貨などが出土した。特筆されるのは、斜面中央付近からみつかった2基の墓坑である。ともに穴の中央に直径30cmほどの四耳壺が埋納されてい

た。2基は2mほど離れて並んでいる。四耳壺は、骨壺として利用されており、ともに12世紀末～13世紀代に美濃須衛地方（現在の岐阜県東部）で焼かれたものと思われる。



図28 四耳壺が埋納された墓坑

調査でみつかった板碑や五輪塔は、すべて表土中からの出土である。後世の耕作で動かされ、まとめて積まれたり、畑の石垣などに転用されたりしていたため原位置を留めたものは一つもない。

板碑は、中央に阿弥陀三尊を示す梵字と、その

下に年号らしき文字が刻まれている。残念ながら年号は判読できない。

地家周辺では、過去に数多くの板碑がみつっている。『佐久市誌』によれば佐久市内では32枚の板碑の存在が確認されているが、そのうち過半数を占める18枚が地家地区の出土である。18枚のうち記年銘が判読できたのは2枚で、ともに1300年代である。板碑の大きさ・形状が似かよっている

ことから、本遺跡出土の板碑も、ほぼ同年代のものと考えている。

みつかった五輪塔は、約350点にのぼる。みつかった中世土坑墓の上部には、埋葬当時五輪塔がたてられていたものもあったと思われる。

中世当時、斜面一帯につくられた板碑や五輪塔が、谷部につくられた寺院をぐるりと取りかこんでいる姿が想像される。

竪穴状遺構や礎石建物跡は、谷の底部でみつかった。竪穴状遺構は、壁際に石を並べている。遺構内からは多数の鉄釘や炭化材がみつかった。



図30 壁際に石を並べた竪穴状遺構の調査

これらの遺構は、斜面を削って平場をつくり、そこに建てられている。二王堂からは、かなり斜面を登ったところになるが、斜面にそって広がった寺院の一部という可能性も考えられる。

またこの谷部には、西から東に流れる幅5～10mの流路が確認された。流路内からは中世陶磁器がみつかり、中世以降に埋まったものである。寺院のあった当時の流路である可能性も考えられる。寺院をつくる際、建物配置などにこの流路が大きく影響を与えていたのかもしれない。

中世以前の地家遺跡

中世以前は、居住地として利用されていた時期があった。みつかったのは、縄文時代住居跡が1軒と平安時代住居跡が8軒である。住居群は、尾根頂部から斜面にかけて、集落域を展開している

縄文時代住居跡は、中央に土器を利用した炉が設けられている。炉の土器型式から時期は縄文時代中期中葉と思われる。確認されたのは1軒のみだが、遺跡内からは縄文土器片や打製石斧、黒曜石剥片が数多くみつかり、この周辺に縄文の集落域が存在している可能性は考えられる。

古代の住居は、尾根頂部から谷部へ続く東南向き斜面に散在し、その時期は2つに分かれそうである。住居出土遺物から、内面黒色土器が多く灰釉陶器がみられる尾根頂部の4軒は、9世紀頃の住居と思われる。これに対して、須恵器が多く高台杯や完形の蓋が出土している斜面中ほどの4軒は、奈良時代を中心とするやや古い時期の住居と考えられる。

尾根頂部からは弥生時代方形周溝墓もみつかった。主体部は残っていないが、周溝の規模は1辺11mほどあり、同時代周溝墓としては大きいものである。出土土器から弥生時代後期と思われる。

調査は来年度も継続

中世遺物が出土した流路は、遺跡範囲外にも続いている。また五輪塔も、遺跡範囲外側の斜面でもみつかった。このため、当初の遺跡範囲は広がることとなった。来年度は、調査区内に残っている市道部分も含め、この遺跡拡大部分の調査を行う。寺院の存在を確かなものとする遺構・遺物の発見に期待したい。寺院の存在が確かめられれば、本遺跡は、中世の信仰遺跡として貴重な例となろう。

図29

出土した中世板碑



こやまてらくほいせき (7) 小山寺窪遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久穂町高野町2063ほか
国道141号線千曲病院入口を西へ800m。

遺跡の立地環境：八ヶ岳東麓、千曲川支流北沢川
右岸段丘上の小丘陵の裾野

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
21.4.6~12.8	13,610㎡	川崎保・太田潤・内堀団

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴建物・住居跡	11	古代 中世
掘立柱建物跡	10	古代~中世
土坑	約730	古代~中世(柱穴群、柵列を含む)
溝跡	5	古代~中世

千曲川上流の古代・中世の集落

遺跡がある八ヶ岳東麓の台地は、火山性堆積物に広く覆われているが、千曲川の支流により、東西に浸食されている(図31)。

同一台地の南側斜面、今回の調査区の西へ30m

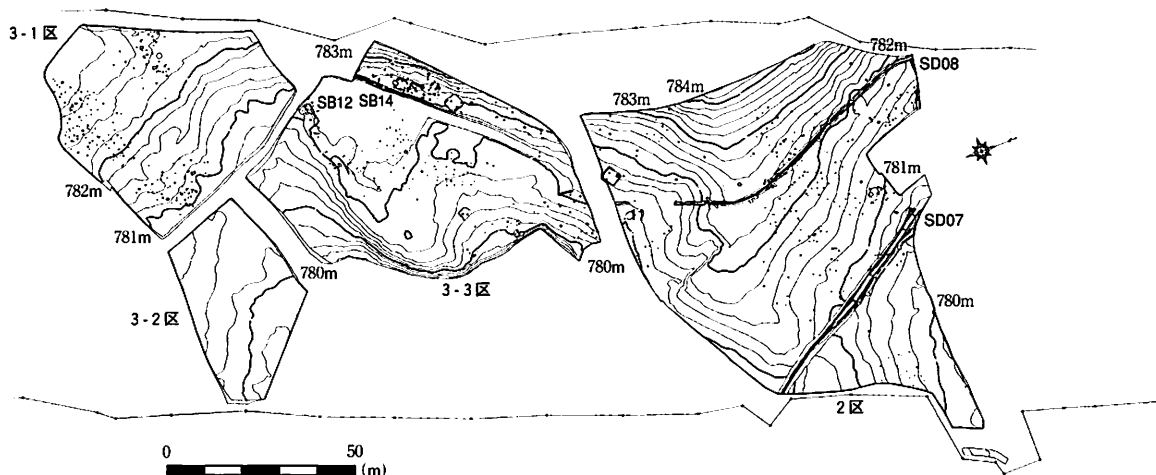


図32 小山寺窪遺跡の調査範囲 (1/2,000)

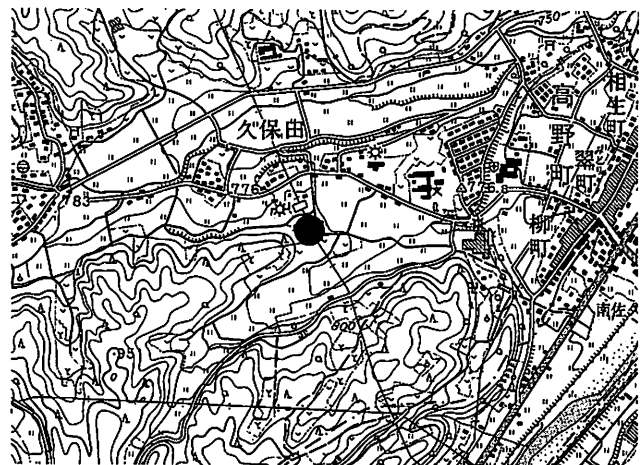


図31 小山寺窪遺跡の位置 (1:50,000 蓼科山)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	土師器(坏、甕)、須恵器(坏、甕)、黒色土器(坏、鉢、皿、盤)、施釉陶器(碗)、青磁(碗)
石器・石製品	ナイフ形石器、石鏃、砥石
木製品	人形木製品
金属製品	銭貨(渡来銭)、キセル

ほど上った地点で、町教委が平成13年に調査を行い、中世五輪塔群が出土している。

昨年度は調査対象範囲の主に東側の1区を調査し、本年度は引き続いて北側の2区、南側の3区を調査した(図32)。

遺構は、昨年度同様に、南向きの緩斜面に竪穴住居跡や掘立柱建物跡、杭列や柵列と思われる小土坑群が検出された。

遺物は、旧石器時代のナイフ形石器や縄文時代

石鏃なども検出されたが、量的には古代（10世紀頃）以降の遺物が多い。本年度は白磁や青磁、在地の土師質土器、陶磁器、人形木製品などが出土した。

主な遺構としては、カマドを持つ平安時代中ごろのいずれも北西辺中央にカマドがある竪穴住居跡が2基検出された。

一方、中世は、周溝を巡らし、床面の中央に火処がある平地式住居（図33）が見つっている。周溝の外側にも柱穴が巡る。

平安時代の住居跡より一回り大きいような竪穴建物跡（図34）もある。カマドはなく、床面と竪穴の辺縁部に沿った形で柱穴がめぐっている点が、平地式住居跡と共通する。

掘立柱建物跡は側柱式のものと総柱式のものがあるが、出土遺物や方向などから多くは中世のものと想定した。

2区では、幅1～1.5m、深さ1mを超える大型の溝が2本（SD07・SD08）検出された（図35）。規模や断面形は中世の防御用の溝とも類似するが、溝の底部からは黒色土器を中心に、土師器や古代緑釉陶器などの平安時代の遺物がまとまって出土している。地形あるいは土層の堆積状況からは、給水路とは考えにくい。溝の性格についても、構築された年代と合わせ、今後研究すべき課題とである。



図33 中世の平地式住居跡 SB14



図34 中世の竪穴建物跡 SB12



図35 小山寺窪遺跡全景（南側から）

ま く ほ い せ き (8) 満り久保遺跡

(中部横断自動車道関係)

所在地及び交通案内：佐久穂町大字畑

国道141号線の清水交差点から東へ約1 km。

遺跡の立地環境：八ヶ岳から東に伸びる尾根末端部の千曲川と大石川をのぞむ河岸段丘上。

調査期間	調査面積	調査担当者
21. 9. 1~12. 10	6, 250㎡	藤原直人 上田 真

検出遺構

遺構の種類	数	時期
溝跡	1	時期不明

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
石器 剥片	旧石器 (槍先形尖頭器、細石刃、細石刃核、石核、スクレイパー、縦長剥片)、縄文 (石鏃)
土器	縄文土器、土師器、青磁

八ヶ岳東麓の旧石器時代石器製作跡

満り久保遺跡は、標高約850~900mを測る河岸段丘上に位置する。遺跡は地形から、尾根稜線部の1区、谷状地形の2区に区分される。遺構の存否や密度を確認するため、1区では3本、2区では36本の試掘トレンチを設定し掘削した。1区で



図37 旧石器時代 遺物検出状況



図36 満り久保遺跡の位置 (1:50,000蓼科山)

は、遺構は未検出であるが数多くの黒曜石の破片がトレンチや地表面から検出された。2区では、遺構の可能性のある落込み4基と少量の土器、石器を検出した。その結果から、1区では尾根上約600㎡について全面調査を行い3,200点を越える旧石器の石器、剥片が出土した。2区では遺構と考えられる落込みが検出されたトレンチを部分的に拡張し、溝跡1条を遺構ととらえ調査した。

1区から出土した石器の種類と数量は、槍先形尖頭器 (23点)、細石刃核 (1点)、細石刃 (2点)、石核 (4点)、スクレイパー (10点)、縦長剥片 (1点) で、これらは未製品や破損品が大半を占めている。ほとんどが剥片・碎片の微小破片であることから、尖頭器や細石刃を製作する過程で残されたものと考えられる。

出土した石器の時期は槍先形尖頭器を代表とする時期と、細石刃・細石刃核を中心とする時期の二つの時期が存在する。また、石器の出土状況は、



図38 石器・剥片 出土分布図



図39 ハヶ岳から伸びる尾根上に位置する満り久保遺跡

ローム層から出土した遺物は少なく、耕作土中から出土する遺物がほとんどであることから、耕作等により本来埋蔵していた土層が攪拌により移動した結果、遺物が耕作土中に混入したものと考えられる。

石器に使われた黒曜石の石材については、不純物の多い個体と比較的不純物の少ない個体が確認できることから、今後、科学分析を行い原産地の同定を行い、石材の違いがどのように製品に反映されているかを検討する必要がある。

満り久保遺跡では、黒曜石以外に千曲川水系由来のチャート製のスクレイパーが出土している。

千曲川流域を遊動していた旧石器人が、原産地に黒曜石を求め、この地で石器を製作した痕跡と考えることができる。また、本遺跡の南側を流れる大石川上流域では、黒曜石原産地直下の池の平遺跡が知られている。満り久保遺跡は、原産地周辺遺跡と千曲川流域の消費地を結ぶ中間的な位置にあることから中継地的な側面を持っていた可能性が考えられる。本遺跡の真相に迫るためには、出土石器の製作技法・器種組成・石器素材の観察・周辺遺跡との対比など、様々な観点から遺跡の性格を考えなくてはならない。



図40 槍先形尖頭器



図41 細石刃核（長さ：3.5cm）

(9) 下村遺跡(鶯ヶ城跡)

(飯喬道路関連)

所在地及び交通案内：飯田市千栄

名勝天竜峡から東側に約3 km。

遺跡の立地環境：天竜川左岸の河岸段丘上。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
21. 4. 13～7. 28	3,800㎡	河西克造 曳地隆元

検出遺構

遺構の種類	数	時期
堀跡	2条	中世
土坑	3基	中世(16世紀以前)
墓坑	9基	中世(16世紀以前)

天竜川を望む戦国時代の山城

下村遺跡と鶯ヶ城跡の遺跡範囲は重複しており、中世城郭関連を鶯ヶ城跡、古代以前が下村遺跡と峻別されている。

鶯ヶ城跡は、武田信玄侵入前に天竜川以東を支配した知久氏の本城である神之峯城(飯田市上久堅)の出城として機能し、神之峯城が武田信玄の攻撃で天文23年(1554年)に落城した際に、廃城となったと伝承されている城である。

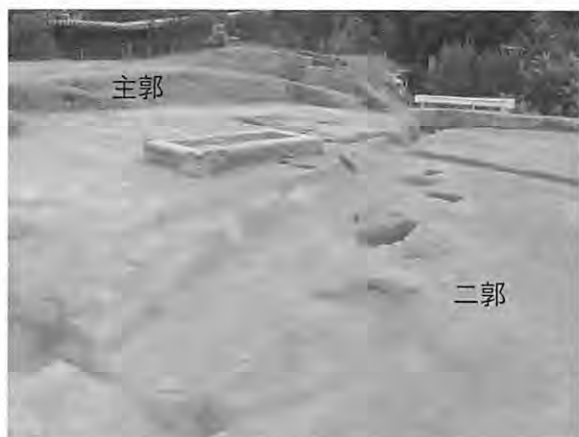


図43 堀(SD02)全景



図42 下村遺跡(鶯ヶ城跡)の位置(1:100,000)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	中世(瀬戸美濃の皿・中津川の甕もしくは壺・内耳土器)、近世以降(碗・皿)
金属器	近世以降(煙管)
そのほか	中世以降(骨)、中世(推定:つぶて)

昨年度、鶯ヶ城跡が立地する尾根状地形の西側斜面と斜面の裾部を調査し、今年度は残る尾根頂部と尾根先端部、さらに一部東側斜面を調査した。路線外である東側斜面を除き、鶯ヶ城跡の中心部を大半調査したことになる。

尾根頂部は、調査前に2つの平場が並置しており、主郭・二郭とみなされていた。調査の結果、尾根頂部の全域にわたり後の耕作が及んでおり、堀(SD02)が1条遺存するのみであった。耕作土からは、古瀬戸中期様式の皿と中津川の甕もしくは壺が出土した。また、堀の覆土からは13~14世紀に比定される中津川の壺が出土した。堀(SD02)は両平場の境界に沿ってのびており、尾根頂部に少なくとも2つの区画が存在したと推定される。この区画は主郭と二郭に相当すると考えられる。なお、主郭とみなされていた平場は、尾根頂部のなかで最も高い場所で、ここに鶯ヶ城跡の主郭が存在したことが地形的にも想定された。

一方、尾根先端部では、鶯ヶ城跡に伴う遺構と城郭以前の遺構が確認された。前者では、約2mの高低差を持つ切岸(人工の崖)と切岸の裾をめ



図44 鶯ヶ城跡の全景

ぐる堀（SD01）がある。この切岸と堀は、鶯ヶ城跡のなかで最も規模が大きく、鶯ヶ城跡は尾根先端部が位置する南西方向の防御を最も強化していることがうかがえた。また、切岸の裾では、16世紀の内耳土器を含む盛土が確認され、この盛土は昨年度調査した西側で見つかった城内道の続きと推定される。防御の要点である場所に城内道が設置されていることは、鶯ヶ城跡の特徴と言えよう。

一方、城郭以前の遺構では、盛土（城内道）の直下から確認された墓坑がある。墓坑は、切岸と堀（SD01）の間で近接して分布しており、人骨が遺存した墓坑もある。出土遺物がないため、墓坑の時期を特定することは困難である。城郭遺構との新旧関係から、16世紀以前としか捉えることはできない。

2カ年にわたった山城の全面調査では、小規模城郭である鶯ヶ城跡の城郭構造が推定され、存続時期（16世紀）を捉えることができた。さらに、築城以前にこの尾根状地形が墓域として利用されていたことが判明し、集落に近い里山の土地利用を考える上で興味深い資料を得ることができた。



図45 尾根先端部の切岸と堀、墓坑



図46 墓坑（SM01）出土の人骨精査風景

Ⅲ 本格整理作業遺跡一覧

遺跡名	所在地	事業名	整理の内容(作業)	整理中の主な成果
せんた 千田	中野市	千曲川替佐・柳沢築堤	遺物分類・接合・計測、金属製品 X 線透過、C14年代測定、樹種・種実同定、プラントオパール分析	本文参照
かわくほ みやおき 川久保・宮沖			金属製品 X 線透過、プラントオパール・珪藻分析	両遺跡は、JR 飯山線を境界に区分されているが、千曲川と斑尾川の合流地点の左岸一帯に立地する一体の遺跡であり、両河川が及ぼす環境変化の影響を受けながら、弥生時代から近世に連綿と続く遺跡群である。
やなぎさわ 柳沢			図面照合、2次元図・個別遺構図・遺構分布図作成、遺物洗浄・注記・分類・接合、青銅器実測、銅鐸三次元光学測量・保存処理委託、土壌ほか科学分析委託	本文参照
つきおか 月岡	中野市	北陸新幹線	図版作成、原稿執筆、報告書刊行	階段状に連なる平坦地地形を数区画にわけた屋敷地が集合する室町時代を中心とする集村形態の遺跡である。
たてがほなおもて 立ヶ花表			遺物注記	—
さわだなべつち 沢田鍋土			図面照合・修正、脆弱土器強化処理	—
しむぐうじ 杜宮司	千曲市	一般国道18号 坂城更埴バイパス	図版作成、原稿執筆、報告書刊行	国内唯一の平安末期の木製仏塔である「六角木幢」について、保存修復の経過と成果、今後に向けての研究課題を提示。
みねうたいざか 峯謡坂			本文参照	本文参照
ひがしなかそね 東中曾根			全体図・遺構図作成、遺物接合、復元	ほぼ完形に近い弥生時代後期の土器が意図的に廃棄された可能性があり、祭祀的な意味合いが高い。今回の調査区域外にも集落の広がりが想定される。
にしなかそね 西中曾根			—	—
ひがししょう 東條			本文参照	本文参照
ちからいしじょうり 力石条里	千曲市	(主)長野上田線 (力石バイパス)	遺物実測、遺構2次原図作成・トレス、樹種・種実同定委託	本文参照
かみごみょうじょうり 上五明条里 みいでんあと 水田址	坂城町		遺物洗浄・注記、土器分類・接合、石器実測、金属製品 X 線透過、鍛冶関係遺物・花粉ほか科学分析委託	本文参照
にしちかつ 西近津	佐久市	中部横断自動車道	土器分類・接合・復元・実測、金属製品 X 線透過、土器実測図作成・遺構図面デジタルトレス・科学分析委託	本文参照
にしちりづか 西一里塚ほか			本文参照	本文参照
たけきなかほら 竹佐中原	飯田市	一般国道474号 飯橋道路	報告書刊行	ホルンフェルスを中心石材とする A～C 地点の石器群は、斧形石器を含む D 地点の石器群より古く、3万～5万年前の石器群として捉えられた。
かわしんじょう 川路大明神原			報告書刊行	縄文中期初頭～前葉の集落では、居住域と貯蔵穴群が区域を異にして分布するが、中期中葉～後葉の集落では貯蔵穴群が居住域に取り込まれる等、住居跡数の増加だけでなく、集落構成にも変化が見て取れる。貯蔵穴は、縄文前期末葉から中期初頭の諏訪地域で一定の広がりを持つ形態で、下伊那地域では初見となる。

(1) 柳沢遺跡・千田遺跡
(千曲川柳沢・替佐築堤関連)

柳沢遺跡

中野市柳沢に所在する。平成18～20年に発掘調査を行い、青銅器埋納坑と銅鐸5点、銅戈8点を検出して全国的に注目された。そのため今年度は弥生時代の遺構・遺物に関する整理作業を最優先した。遺構に関しては2次原図作成とトレース、全体図作成作業、及び礫床木棺墓群の検討を実施した。遺物に関しては青銅器の実測、未洗浄遺物の洗浄と注記、一部の土器接合を行った。さらに礫床木棺墓の礫洗浄・集計、主体部掘削土の水洗選別による遺物採取作業を実施し、新たに管玉を採取することができた。以下今年度作業で判明した注目点を、弥生時代から紹介する。

礫床木棺墓について 遺構図の修正を行い、属性分析を試みた。まず礫床木棺墓の主体部規模を以下に設定する(図47)。

I類：長軸が124～160cm、短軸が50～65cm

II類：長軸が77～100cm、短軸が42～50cm

6区墓域ではI類が12基、II類は5基検出されている。規模からみてI類は成人用、II類は小児用と考えたい。またII類の長軸が77cm以上である点から、これよりも小さい幼児用の墓坑が存在する可能性もある。

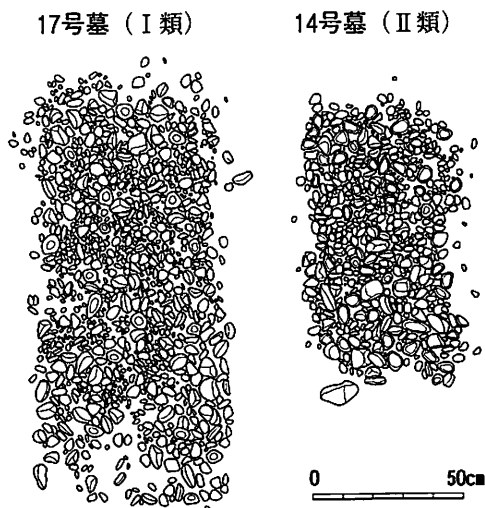


図47 礫床木棺墓群の大きさ

上記の中で成人用のI類である1・9・12号墓に注目したい。この3基は主体部の大きさが通常の墓と同じなのに、外周の一部分もしくは全体に礫集積帯を有している。これは6区礫床木棺墓群の他の墓にはない特徴である。

1号墓の位置は6区礫床木棺墓群の中央にあり長軸は南北方向をとる。主体部の四周に幅70～80cmの礫集積帯を有する。礫床の北半部で細形管玉が集中的に出土した。今年度掘削土から採取したものを含めて98点となった。石材の内訳は、緑色凝灰岩と思われるもの88点、鉄石英と思われるもの10点である。

9号墓の位置は1号墓より約4m離れた墓群北西部に位置する。1号と若干長軸角度がずれるものの長軸は南北方向をとる。北小口側に幅60cm程の礫集積帯を有する。主体部の北半部では細形管玉が27点出土した。すべて緑色凝灰岩製と思われる。

12号墓は9号墓の南側に隣接し、長軸はほぼ同じ。北小口側に幅50cm程の礫集積帯を有する。ここでは管玉は出土していない。主体部の西側中央に近接して略完形の壺が横位で出土している。唯一土器棺墓の可能性はある。

礫集積帯と管玉の出土から、1・9・12号墓の被葬者は本墓域の中では他の墓よりも優位な地位にある人物の可能性を指摘したい。その中で最初に埋葬され、最有力な人物が中央の1号墓に葬られたと考えられる。9・12号墓についても1号墓の被葬者と深い系譜を有し、特定集団墓を構成した可能性がうかがえる。

礫床木棺墓から採取した、主に礫床に敷設された礫は、洗浄後石質を分類し、計量・計数した。もっとも多く使われたのは砂岩と安山岩であり、泥岩、チャートなどが続く。個々の礫の平均重量は墓によって大きな開きがある。主たる石質と重量の差異に着目して墓の分布を見ると、偏在する傾向がうかがえる。このため、礫は墓群を群別する場合の指標となる可能性を秘めている。

礫床木棺墓群の分析はまだ開始されたばかりであるが、礫床に敷設された千曲川産の円礫を含め

て、各墓の細かい属性を検討することで、この墓域に葬られた集団に迫ってゆきたい。

シカ絵土器について 6区の礫床木棺墓群から北へ110m程離れた、居住域の遺物包含層から出土した。半分弱が遺存した現存高29cmの栗林式壺形土器の胴部最大径の上に、大小2頭の雄シカが左向きに線刻されていた(図48)。

シカの意匠は弥生時代中期後半を最盛期として、奈良県を中核に西日本で銅鐸や壺に描かれることが多い。長野県では弥生時代絵画土器としては初見、全国的には分布範囲を大きく北東に拡大することとなった。青銅器としては、大町市海ノ口上諏訪神社に伝来する近畿型銅戈の「内」に描かれていることが知られている。

柳沢遺跡の青銅器埋納坑に見られた、銅戈は刃を立ててそろえ、銅鐸を直角方向に置く埋納作法は、西日本のそれとなんら変りないことがすでに指摘されている。青銅器祭祀の伝来に加えて、近畿地方の絵画土器最盛期と同時期の在地型式の絵画土器が発見されたことにより、西日本を起源とする農耕祭祀が北信地方に深く根付いていたことが、より明らかとなった。

青銅器の整理作業 1・2号銅鐸：鐸身内の土を除去した。これにより舞の型持を内面から観察することが可能となった。1号銅鐸の型持は推定1cm幅の長方形を呈する。2号銅鐸の型持は推定1.0×1.5cmの長方形を呈する。これにより両銅鐸は文様の諸特徴とあわせて外縁付鈕1式であることがほぼ確実となった。

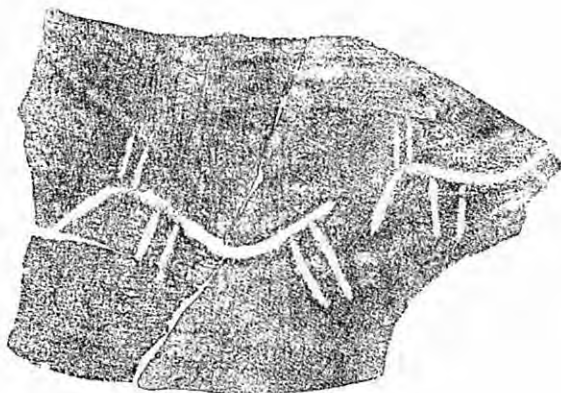


図48 シカ絵土器

3号銅鐸：6個の破片を実測した。鱗にある飾耳が3本単位の太い隆線で横方向の「U」字状に張り出した点を確認できた。

4号銅鐸：5個の破片を実施した。身の破片は斜格子文の縦帯が横帯を切ることが改めて確認できた。身内部の土を除去し、舞内面に長軸1cm、幅0.5cm程の長方形の型持を確認した。確認位置から推測すると、中央短軸方向に2個存在したと考えられる(図49)。

5号銅鐸：13個の破片を実測。本銅鐸は器形復元を試みた。これにより器高25cm、舞長軸8cm、身の下縁長軸11.5cm程の大きさになることが判明した。この法量は2号銅鐸とほぼ同じ程度の大きさとなる。これにより柳沢遺跡出土の5点の銅鐸はいずれも20cmクラスであることが一層確実となった。

3・4・5号銅鐸は上記の実測・観察後、奈良文化財研究所に保存修復を委託し、完了した。

土器・石器の整理 3ヵ年の調査による出土遺物量は、コンテナ数で土器は348箱、石器は77箱を数える。時代は縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世にわたっているため、注記後時代別分類を行った。縄文時代は遺物量をもっとも多い。住居跡4軒が分布する調査範囲北部の8・13・12区に中期末から後期初頭土器が集中し、その他の地区にはごく少量が散在していた。時期は早期の押型文・条痕文期、前期後葉、中期中葉、後期中葉、晩期の様々な時期に及び、これらは縄文遺構が見られない12区以南から出土している。



図49 4号銅鐸舞の型持

弥生土器は中期後半の栗林式、後期の吉田式・箱清水式が出土しているが、栗林式が最も多い。本遺跡の弥生時代集落は、南から水田域、祭祀域（青銅器埋納坑）、墓域（礫床木棺墓群）、居住域という土地利用が行われてきたと推定される。現在、土器の編年的な検討によってそれらの同時性、変遷を追い、地点ごとの器種組成や遺存率から集落内の場の機能などを明らかにするため、入念な分類作業を行っている。

石器については、縄文時代から中・近世に及ぶ約900点を数えた。大部分は縄文時代に帰属するが、弥生時代の居住域に当たる9区を中心に弥生時代の石器が抽出された。主なものは破片を含めて大型蛤刃石斧19、扁平片刃石斧10、小型磨製石斧5、磨製石鏃3、有茎石鏃11、石鏃または刃器10などである。縄文土器がほとんど分布していない9・10区でも石鏃と同じ岩種の剥片が出土しており、石器製作に伴う石くずと考えられる。わずかな資料ながら、住居跡の分布以上に広がる居住域の痕跡であろうか。

千田遺跡

本遺跡は中野市豊津に所在する。平成14・15・17・18・19年に調査した。千曲川と斑尾川の合流地点南側一帯に広がる。千曲川に面する地点では縄文時代の集落、斑尾川に面する地点では古墳時代の集落、中・近世の集落と水田・畑跡が検出された。

今年度は1600箱を超える遺物の内容と、図面・写真等の資料数量把握を中心に作業を進めた。特にJR飯山線替佐駅からまっすぐ千曲川に下った地点、8区の縄文中期集落跡出土土器について、報告書掲載遺物量の把握のため、遺物量の多い住居数軒を選んで接合・復元を行った。この地区からは53軒の住居跡が検出され、中期中葉10軒、末葉3軒程度以外は後葉段階に属す住居である。発掘中から新潟県と共通のベッド状遺構や長方形石囲炉を備えた住居の多さが注目され、桁倉式と呼ばれる土器型式が主体を占め、長野県の型式は1割に満たないことが感覚的に把握されていた。復



図50 千田遺跡 縄文中期後半土器

元を行ったSB25・37号住居跡はいずれも後葉に属し、新潟県の型式を主体とする組成であった。SB25号の土器は半隆起線文を地文とする把手付または平縁の深鉢が多く、縄文地文の平縁深鉢が伴う（図50）。SB37号の土器は綾杉文を地文とする把手付または平縁の深鉢が多いという差が見られた。これらに口縁部の圧痕隆帯文以外は縄文か条線文地文の大形深鉢が伴うものである。こうした組成は新潟県の上越地方にやや共通するが、中越地方で桁倉式とされる土器群には見られない土器構成である。

8区の石器集計を行い、石核・剥片類と弥生後期、古墳後期に属すものを除いて、約3300点を数えた。主な器種は概数で石鏃800、スクレーパー170、石錐80、打製石斧360、磨製石斧220、磨石類1000、叩石・礫器類360、石皿80、多孔石120などである。長野県では異色の縄文集落であり、北信地方屈指の調査事例となった千曲川本流に接する遺跡の個性が、ようやく明らかになってきた。

(2) 東條遺跡・峯謡坂遺跡

(一般国道18号坂城更埴バイパス関連)

坂城更埴バイパス関連では標記遺跡と西中曽根、東中曽根遺跡について、報告書作成のための整理作業を昨年度から進めている。作業内容は全体図・遺構トレース図の作成、遺物の分類・接合・選別・復元・実測・トレース、計測、台帳作成、写真撮影、原稿執筆等である。

社宮司遺跡出土の六角木幢については、昨年度保存修復事業が完了したのにもない、「社宮司遺跡六角木幢保存修復編」として報告書を作成した。なお、六角木幢および実物レプリカ、記録類を22年2月に県立歴史館に移管した。ここでは、東條遺跡、峯謡坂遺跡を紹介する。

東條遺跡 遺跡は姨捨土石流台地から連なる押し出し地形の末端部にあり、東側では千曲川に近接する。その性格は古墳時代から室町時代までの複合遺跡である。今年度は、おもに、古墳時代後期から平安時代にかけての集落について、整理作業を進めている。竪穴住居跡は82軒あり、おもな時期は7世紀後半から9世紀に帰属する。今後は、重複する住居の再検討をし、住居跡の前後関係を定め、変遷をまとめる。

この時期の出土土器はテンバコ361箱を数える。分類、選別の過程で、文字資料の抜き出しをし、墨書土器28点、刻書土器28点、墨痕付土器2点を確認した。刻書には、「×」などの記号も含まれるが、「井」が刻まれた土器が3点ある(図51)。近隣の社宮司遺跡でも、「井」が2点出土している。



図51 「井」と刻まれた須恵器

両遺跡で共通する、この文字が何を示すのか、検討を進めたい。

出土した須恵器のなかには、大形の盤や蓋が存在する。一般的な集落遺跡ではあまりみられない、資料である。遺跡で利用された場合、大きな器が必要な、人が集まる場所として、遺跡の性格付けが可能である。一方、遺跡で利用されないとした場合、どこかに搬出するなかで、遺跡を通過したことも想定され、遺跡は通過する場、もしくは集積の場とも考えられる。

須恵器窯の窯壁が付着したと考えられる甕の小破片もある。このほか、円面硯の破片1点、帯金具1点などが確認できた。

峯謡坂遺跡 遺跡は姨捨土石流台地の尾根上にある。遺跡の主たる時期・性格は、奈良時代から平安時代の集落遺跡である。

出土遺物では、黒曜石が石鏃などのほかに剥片・チップをあわせて394点を数えた。この他、打製石斧の素材剥片などもあり、おそらく遺構は確認されていないが、縄文時代もこの場が活用されていたことがわかった。

古代の土器のなかでは、近畿地方8世紀後半長岡京期の壺の底部が溝状の窪地(SD02)からみつまっている(図52)。このタイプの細長い壺の出土例は、県内でも下神遺跡、吉田川西遺跡など、数例である(県立歴史館原明芳氏による)。ちなみに、SD02からは円面硯、緑釉陶器、鉄鏃などが、調査時点で確認されている。

今後は、峯謡坂遺跡、東條遺跡ともに、更級郡衙関連遺跡とされる社宮司遺跡を含めた一帯の変遷に迫りたい。

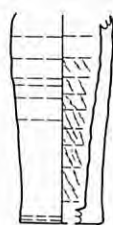


図52 峯謡坂遺跡出土壺(底部 S = 1/4)

(3) 力石条里遺跡群

(県道長野上田線力石バイパス関連)

平成13～20年度に発掘調査を行い、今年度は、報告書作成に向けた、整理作業を行った。主な作業内容は、全体図の作成、遺物の実測・トレース作業等である。

遺跡は千曲川左岸の沖積地に位置し、弥生時代前期末～中世にかけてのさまざまな遺構が検出された。中でも注目されるのは、千曲川流域では珍しい弥生時代前期末～中期初頭の墓域と、弥生時代後期の集落跡である。ここでは、弥生時代後期の集落跡について紹介する。

弥生時代後期の集落跡

今回の調査は、弥生時代後期の竪穴住居跡56軒、掘立柱建物跡3棟、井戸跡6基などが検出されている。竪穴住居跡は、④～⑥・⑨～⑪区で検出されているが、⑤・⑥区に37軒と集中しており、この地区が集落の中心となると思われる。また、竪穴住居跡の周辺からは、集落で共同の施設として使われたと思われる井戸跡や、倉庫となる掘立柱建物跡もみつかった。

また、集落から出土した土器の実測作業が進んだことにより、①高坏は脚部が長い②壺は全面を赤彩するものが少ない③甕は口縁部文様帯に波状文を充填させない甕が存在し、胴部の波状文が胴最大径上位に充填される傾向が見られるなど、出土土器の特徴が分かってきた。こうした土器の特徴から、この集落の中心となる時期は弥生時代後期中葉であると推察される。

なお、弥生時代後期土器の編年については、青木一男氏（長野市後町小学校教諭）の指導を受けた。

今後、弥生時代前期末～中期初頭の墓域で検出された土壌の形態や、出土した大量の土器・石器・土偶などの土製品についての整理作業を進め、弥生時代前期末～中期初頭の葬制について検討を進めてゆきたい。

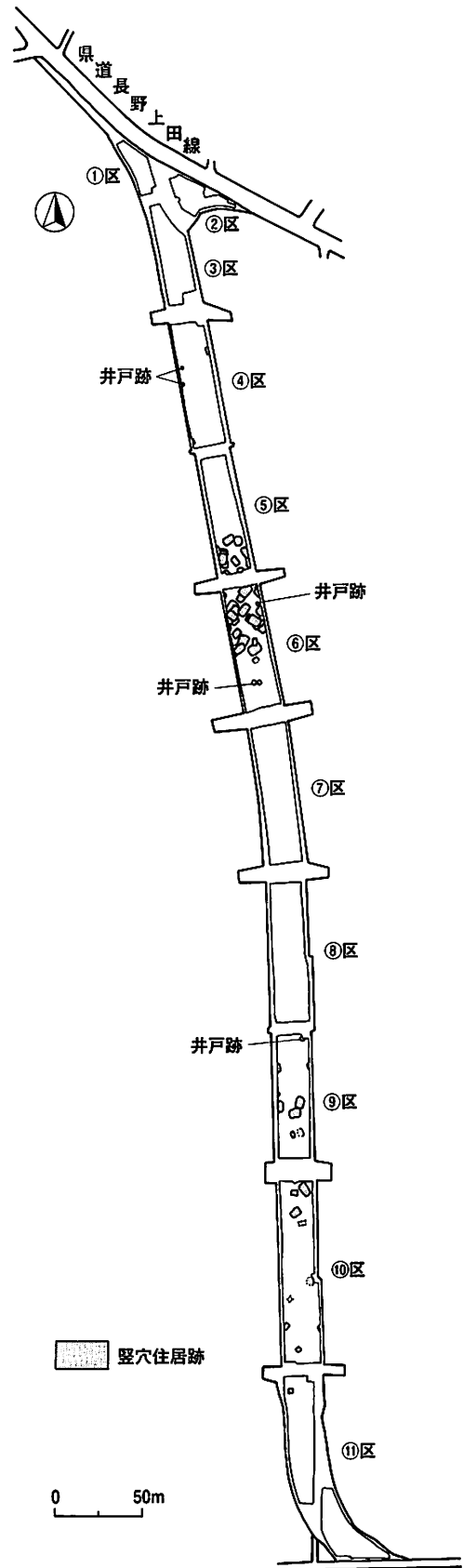


図53 弥生時代後期の遺構分布図

(4) 西一里塚遺跡群

(中部横断自動車道関連)

平成16～18年の3ヶ年にわたり計25,100㎡の発掘調査を実施した本遺跡は、北に近接する久保田遺跡・濁り遺跡とともに今年度から本格的な整理作業に入った。

今年度は図面関係では図の修正及びデジタルトレースを、また遺物では土器の分類・接合・復元・実測、石器の整理等を行なった。

本遺跡は、平坦な台地・湿地状の低地・浅間山の土石なだれによる残丘という多様な地形上に営まれた遺跡である。台地や残丘では弥生時代中後期の竪穴住居跡13軒の他、円形・方形周溝墓24基・木棺墓2基・土器棺墓5基などが検出されている。一方の低地では平安時代～近世までの水田跡4面の他、弥生時代後期の溝や土坑が認められている。佐久地方では出土例の少ない弥生時代の木製品（鋏・建築部材等）が出土しているのも特筆できる。

今年度の整理作業での最大の成果としては土偶形容器の全体の形が判明したことがあげられる。

これは平成16年の調査で頭部が、また翌17年の調査では左腕が発見され、注目されてきたものだが、今年度の整理作業において、これらと接合する胴部以下の部位が見つかり、弥生時代の土偶形容器であることが判明した。

本事例は、土偶形容器の多くにみられるような頭部の貫通孔はなく、中実であることが大きな特徴である。

底部面はわずかに剥落しているが、全長は約28cmをはかる。胴部下位を除く外面には赤彩が施され、頭部や左腕にもその痕跡が認められる。また正面側の胴部上位には開口部がみられる。

出土地点は隣接する2つの調査区にまたがり、頭部(①-2区)と左腕及び胴・底部(②-2区)は調査区を異にしている。そして左腕が弥生時代後期の溝(SD37)下層から出土した他は、遺構外出土である。

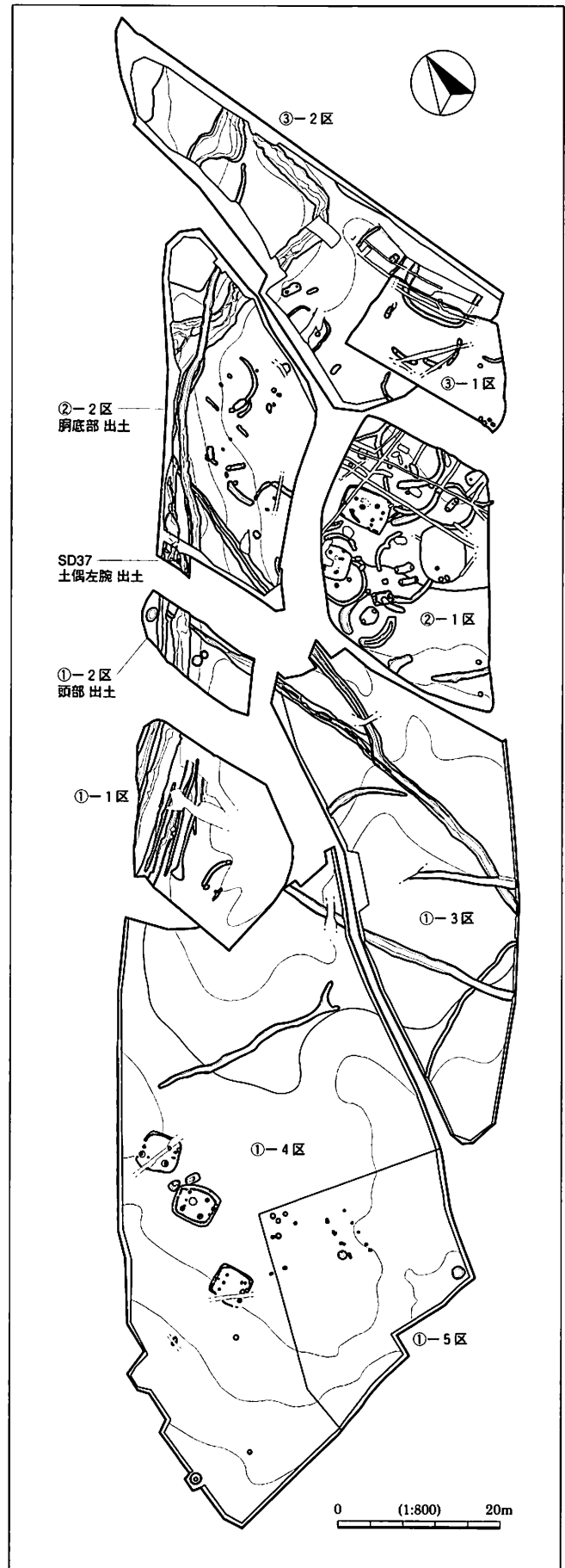


図54 調査区(①～③区)遺構配置図

(5) 西近津遺跡群

(中部横断自動車道関連)

本格整理の開始 調査は平成18～20年度の3年間行った。対象面積23,950㎡には縄文～鎌倉時代までの竪穴住居跡605軒をはじめとする多くの遺構が重複し、出土遺物は約1,400箱、40万点余を数えた。報告書刊行を目指した本格整理は本年度から実施し、5ヵ年計画で進めている。

今年度の主な作業内容は、記録類の点検と修正、出土遺物の注記と分類、金属器のX線撮影である。また土壌や炭化物の科学分析と出土骨の分類・計測も実施した。

現場図面は統合して詳細な遺構全体図を作成している。また個々の遺構では報告用の図版作成を継続している。

遺物の注記は19年度から開始し、9月に全て終了した。遺物量の大半を占める土器は種類ごとに分類し、接合や復元、報告書に掲載する資料抽出に備えた。大きくは縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器に分類した。また文字や記号が記された資料も抽出した。分類作業は11月で終了し、12月から弥生土器の接合と復元作業を実施している。

文字資料の抽出 発掘調査の段階でも遺跡を取り巻く歴史背景や、集落自体の位置づけを投影する文字資料が出土している。土器でいえば佐久郡を指すと推定される「郡」と刻書のある須恵器坏(奈良時代)、佐久郡内にあった大井郷を指す「大井」と刻書のある須恵器壺(奈良～平安時代)が出土した。また平安時代の銅製印には「金□子私印」と鋳出され、地域における有力者の存在を推察させた。整理作業においても、40万点を超す土器片一つ一つに文字や記号の痕跡を求めた。その結果、137点の土器に文字や何らかの記号が見出された。

時代は奈良～平安時代各期に及ぶ。内訳として土師器の墨書67点、刻書26点、須恵器の墨書5点、刻書35点、刻印1点、灰釉陶器の墨書3点である。また須恵器の円面硯6点、灰釉陶器碗転用の朱墨

硯(またはパレット)2点もみつかった。

「美濃国」の刻印土器(図55)以上の文字関連資料のなかで、「美濃国」と刻印のある須恵器について紹介する。出土地点は調査範囲の南端で、遺構確認のための検出作業で出土した。高台のつく坏の破片で重さ37.5g、横7.0cm、縦5.6cm、厚さ1.0cm、底部内面に「美濃国」の文字の一部が刻印されている。推定する坏の大きさは底形9.0cm、口径14～15cm、高さ5cm内外である。焼成は良好、灰白色で緻密な質感は美濃産須恵器の特徴である。

文字は凹み、「美」の下半一部、「濃」のほぼ全部、「国」の右下部が残存する。刻印は押印後に表面をナデ調整したためか、ややかすれている。生産遺跡である岐阜市老洞1号窯の報告書との照合から、同じ形状の資料が確認できる。全体形としては上に「美」、下右に「濃」、下左に「国」を置き、頂点を上にした三角形内に配字している。

「美濃国」刻印土器は、岐阜市や各務原市の須恵器窯で、8世紀前葉(今から1300年前)に限って生産された、全国で唯一、国名が刻印された須恵器である。岐阜県を中心に6県55地点に分布していて、遠く奈良県の藤原宮跡や平城宮跡、三重県の斎宮跡での出土例から、中央へ税として納めていたとする説もある。

長野県内ではこれまでに飯田市、岡谷市、松本市の3市6遺跡から7点みつまっている。今回出土した西近津遺跡群は、生産地から北東方向に直線距離で170kmも離れ、出土地としては最も遠く、北東限にあたる。(図56)

今後の整理 奈良・平安時代の土器接合は22年度に本格的に実施する。「美濃国」刻印土器のように調査段階では帰属する遺構が限定できない場合も多いが、竪穴住居跡の土器との接合がかなう可能性もある。出土した調査区の南端には奈良時代の大型竪穴住居などがみつまっている。また須恵器全体に占める地元産、美濃産などの流入須恵器の割合を明らかにし、当時の物流状況を把握することも必要である。そうした作業を経た上で、佐久地域、また西近津遺跡群における「美濃国」刻印土器出土の意義を考察してみたい。

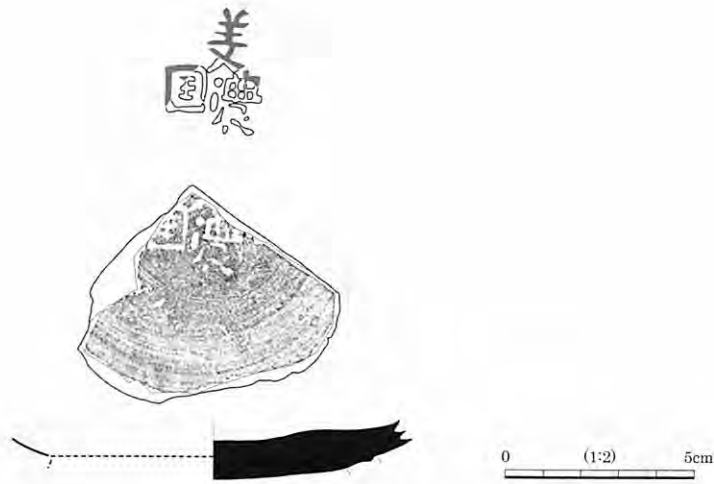


図55 「美濃国」刻印須恵器と刻印部の復元

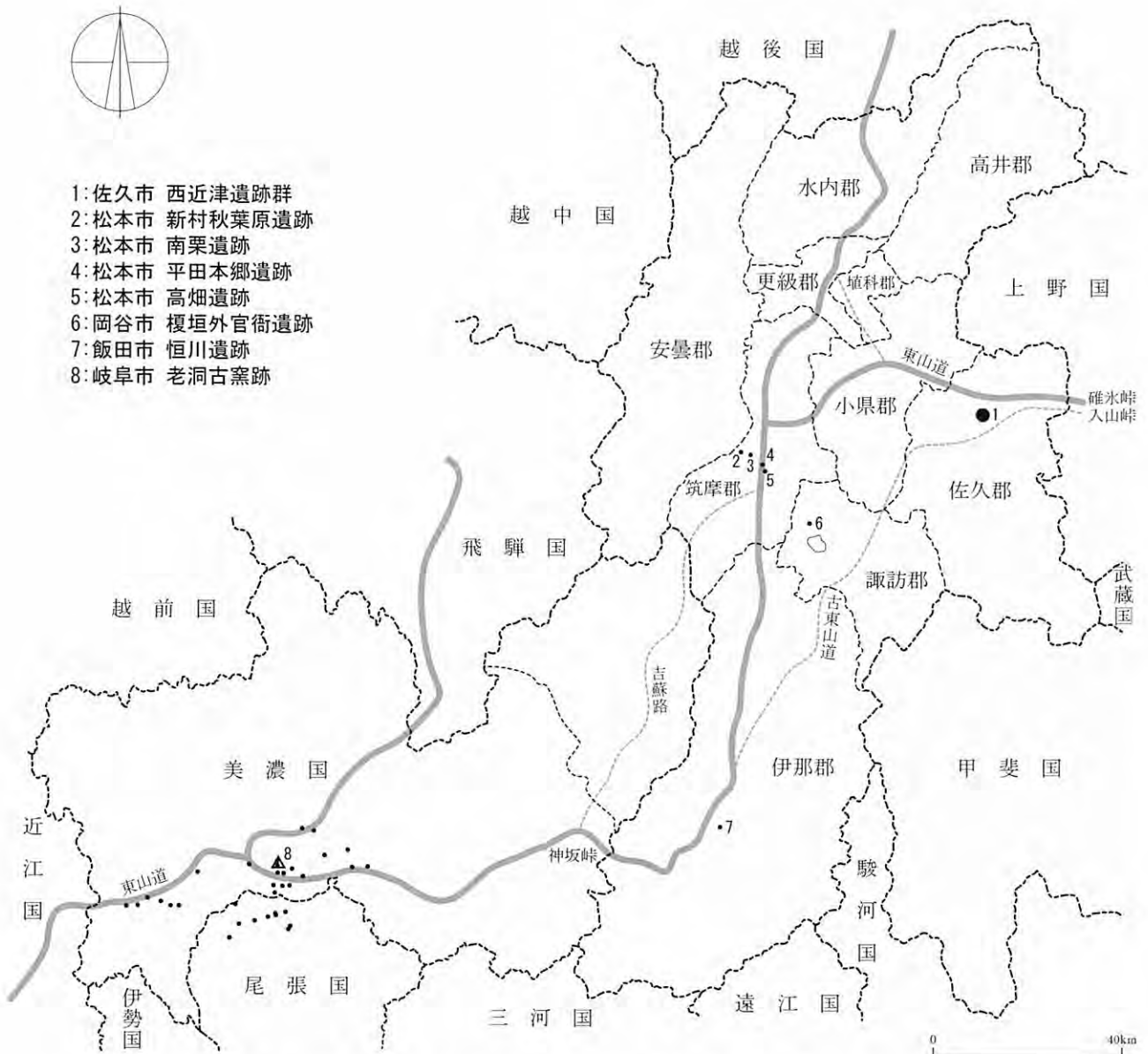


図56 「美濃国」刻印土器の分布状況（岐阜県・愛知県・長野県）

IV 普及公開活動の概要

(1) 展示会・講演会

① 平成21年長野県埋蔵文化財センター速報展 「長野県の遺跡発掘2009」

<長野県立歴史館会場>

会 期：平成21年6月20日(土)～7月20日(月)

来館者：4,334名

内 容：本年は歴史館で善光寺御開帳にあわせた企画展が入ったため、例年よりも遅い開催になったが、柳沢遺跡の青銅器・シカ絵土器などをはじめ、平成20年度の調査遺跡7・整理遺跡2の計9遺跡の展示を行った。

遺跡調査報告会 6月27日(土)

遺跡報告 柳沢遺跡ほか3遺跡

聴講者 121名



銅戈・銅鐸に見入る来館者

<長野県伊那文化会館会場>

会 期：平成21年7月30日(木)～8月23日(日)

来館者：1,389名

内 容：本会場での速報展も6回目を数えることとなった。9遺跡の展示の他、遺跡報告及び講演会の演題に関連して、過去に発掘調査された県内の主な城館跡4遺跡と会場のある春日城を写真パネルで紹介する特別コーナーも設けた。

遺跡調査報告会・講演会 8月1日(土)

遺跡報告 下村遺跡(鶯ヶ城跡)ほか2遺跡

講演 「掘り起こされた戦国の城館—長野県を中心として—」

講師 NPO 法人 城郭遺産による街づくり協議
会理事長 中井 均 氏

聴講者 85名



中井均先生の講演

② 「写真でみる長野県の遺跡発掘2010」

会 場：しなの鉄道屋代駅 千曲市民ギャラリー

会 期：平成22年2月18日(木)～2月25日(木)

内 容：長野県立歴史館で開催される速報展のイベントと位置づけ、最寄りの屋代駅構内で写真パネルを中心とした展示を行った。

③ 県庁ロビー展「長野県の遺跡発掘2010」

会 場：長野県庁1階ロビー

会 期：平成21年3月1日(月)～3月5日(金)

内 容：県文化財・生涯学習課主催事業に協力し、県庁を訪れる人を対象に埋蔵文化財や当センターの業務を理解してもらうことを目的に、今年度調査された遺跡資料を展示した。

④ 平成22年長野県埋蔵文化財センター速報展 「長野県の遺跡発掘2010」

会 場：長野県立歴史館会場

会 期：平成22年3月13日(土)～5月9日(日)

内 容：今年度の調査・整理遺跡のうち、板碑や四耳壺など中世の葬送に関する遺物が出土した地家遺跡をはじめとする11遺跡の資料を展示した。

遺跡調査報告会 3月14日(日)

遺跡報告 沢田鍋土遺跡ほか4遺跡

(2) 現地説明会

県教育委員会との共催事業として8遺跡で実施し、延べ756名の参加があった。

① 上五明水田址（坂城町）

6月6日（土）85名

地表下3mに埋もれていた平安時代の住居跡などを見学。

② 下村遺跡（飯田市）

6月14日（日）128名 晴れ

中世山城の堀跡などを見学。

③ 沢田鍋土遺跡（中野市）

7月26日（日）68名 晴れのち雨

奈良時代の土器工房跡や粘土の採掘跡を見学。千葉県や新潟県など県外からの見学者もあった。

④ 地家遺跡（佐久市）

7月26日（日）131名 晴れ

大変暑い中、地元の方がたの参加が多く、遺跡は語り継がれてきた旧長命寺の周辺地であったことから、調査への関心の高さがうかがわれた。

⑤ 近津遺跡群（佐久市）

8月29日（日）95名 曇り

弥生時代の終末から古墳時代の初頭にかけてつくられた小規模なムラの跡を熱心に見学いただいた。しっかりと残っていた住居跡から「周囲に復元住居を建てて子どもたちの学習に役立ててはどうか」という声も聞かれた。



近津遺跡群の竪穴住居跡

⑥ 小山寺窪遺跡（佐久穂町）

10月24日（日）105名 曇り

平安時代から中世にかけての住居跡や建物跡、溝跡を見学。遺跡の一角で「発掘体験」を実施、親子連れを中心に30名が発掘にチャレンジした。

⑦ 満り久保遺跡（佐久穂町）

11月14日（日）110名 雨のち晴れ

激しい雨にもかかわらず午前中から50名以上の参加者があり、プレハブ内で出土品の見学や解説を行ったが、11時過ぎからは雨も上がり、遺跡の現地も見学することができた。

⑧ 鬼釜遺跡（飯田市）

11月26日（木）・27日（金）34名

平日の発掘作業中の遺跡を公開したため、土器などが見学者の眼前で出土した時には歓声があがるなど、調査の臨場感も体験してもらうことができた。

(3) 夏休み考古学チャレンジ教室

8月4日（火）・5日（水）の2日間、長野市篠ノ井において、埋蔵文化財センターの施設公開をおこなったところ、167名の参加があった。

普段は遺跡から出土した資料を整理している部屋に体験ブースや見学ブースを設け、楽しみながら埋蔵文化財に関わる仕事を知っていただいた。



どきドキ土器体験ブース

V 研修、資料調査などの概要

(1) 講師招聘などによる指導

月 日	所属	職・氏名	指導内容
6月10日	信州大学人文学部	教授 笹本正治	下村遺跡の調査について
6月10日	飯田市立上郷考古博物館	館長 岡田正彦	下村遺跡の調査について
6月15～16日	NPO 法人城郭遺産による街づくり協議会	理事長 中井 均	下村遺跡の調査について
6月18日	佐久市教育委員会	主事 須藤隆司	高尾A遺跡について
6月26～29日 9月11～12日	愛媛大学法文学部	准教授 吉田 広	青銅器の実測について 柳沢遺跡調査指導委員会
8月1日	NPO 法人城郭遺産による街づくり協議会	理事長 中井 均	掘り起こされた戦国の城館について
8月6日	愛知県立熱田高等学校	教頭 城ヶ谷和広	沢田鍋土遺跡の調査について
8月19～21日 2月17～19日	京都大学	名誉教授 茂原信生	西近津遺跡群の出土骨について
1月5日	長野市立昭和小学校	教諭 出河裕典	上五明条里水田址出土の瓦塔について
1月5日	長野市立後町小学校	教諭 青木一男	力石条里遺跡の弥生土器と集落について
1月27日	長野県立歴史館	学芸員 原 明芳	上五明条里水田址の緑釉陶器について
2月17～19日	総合研究大学院大学	教授 本郷一美	西近津遺跡群の出土骨について
2月24～25日	明治大学	名誉教授 戸沢充則	竹佐中原遺跡等調査指導委員会
2月24～25日	首都大学東京	名誉教授 小野 昭	竹佐中原遺跡等調査指導委員会
2月24～25日	東北学院大学	教授 佐川正敏	竹佐中原遺跡等調査指導委員会
2月24～25日	東京大学	教授 佐藤宏之	竹佐中原遺跡等調査指導委員会
2月24～25日	木曾町文化財審議会	委員 神村 透	竹佐中原遺跡等調査指導委員会
12月8日 2月24～25日	伊那谷自然友の会	理事 松島信幸	飯田市鬼釜遺跡の地形・地質について 竹佐中原遺跡等調査指導委員会
3月2日	別府大学	客員教授 宮本長二郎	東條遺跡の建物跡について
3月4～5日	長野県遺跡調査指導委員会	会長代理 笹沢 浩	柳沢遺跡調査指導委員会
3月4～5日	大阪府狭山池博物館	館長 工楽善通	柳沢遺跡調査指導委員会
3月4～5日	京都国立博物館	保存修理指導室長 村上 隆	柳沢遺跡調査指導委員会
3月4～5日	奈良文化財研究所	考古第一研究室長 難波洋三	柳沢遺跡調査指導委員会

月 日	所属	職・氏名	指導内容
3月4～5日	明治大学文学部	教授 石川日出志	柳沢遺跡調査指導委員会 力石条里遺跡の弥生時代墓制について
3月4～5日	信州大学理学部	教授 保柳康一	柳沢遺跡調査指導委員会
3月4～5日	愛媛大学ミュージアム	准教授 吉田 広	柳沢遺跡調査指導委員会
3月8～9日	愛知学院大学	教授 藤澤良祐	地家遺跡他出土陶磁器について

(2) 全埋協等への参加

期 日	会 議 名	開催地	参 加 者
4月25日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック春季連絡会	新潟市	上田典男 窪田秀樹
5月14・15日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会	名古屋市	平林 彰 西沢宏明
6月11・12日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	札幌市	阿部精一 平林 彰
6月17日	市町村文化財担当者会議	山形市	大竹憲昭 西沢宏明 内堀 団
7月16・17日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会コンピュータ等研究委員会	名古屋市	平林 彰 大竹憲昭 市川隆之 曳地隆元
10月29・30日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック秋季連絡会	金沢市	大竹憲昭 窪田秀樹
11月5・6日	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議	水戸市	若林 卓
11月26・27日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会	水上町	阿部精一 平林 彰
12月3・4日	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者協同研修協議会	宇都宮市	賛田 明 太田 潤
1月14日	市町村埋蔵文化財担当者技術研修会	長野市	寺澤政俊 白沢勝彦 河西克造 曳地隆元 清水梨代 大沢泰智
1月27～28日	埋蔵文化財担当職員講習会	千葉市	大竹憲昭

(3) 研修および資料調査

期 日	参加者	場所	内 容
5月21日～22日	柳澤 亮	滋賀県・大阪府	弥生時代大型建物の研究 安土城博物館 弥生文化博物館
6月15日～19日	柳澤 亮	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「建築遺構調査課程」
7月12日～13日	上田典男	鳥取県	青谷上寺地遺跡の資料調査

期 日	参加者	場 所	内 容
7月23日～ 8月6日	西 香子	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「文化財写真Ⅱ（応用）課程」
9月1日～9日	川崎 保	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「古代陶磁器調査課程」
12月11・12日	上田 真 柳沢 亮	奈良県	古代官衙・集落研究会
1月24・25日	上田典男 廣田和穂	大阪府・ 兵庫県	弥生時代祭祀関連遺構・銅鐸に関する資料調査 大阪市文化財協会 辰馬考古資料館
1月28日～ 2月5日	上田 真	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「報告書作成課程」
2月16日～24日	清水梨代	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「地質環境調査課程」
2月12日～14日	平林 彰 廣田和穂	島根県	荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡の資料調査

(4) 学会・研修会などでの発表

月 日	派遣先	内 容	担当者
6月6日	県立歴史館	ふれあい歴史講座「古代のハンコについて」	柳澤 亮
6月6日	県立歴史館	ふれあい歴史講座「祈りの造形～六角木幢を考える～」	岡村秀雄
6月13日	県立歴史館	ふれあい歴史講座「縄文時代の柳沢遺跡」	綿田弘実
6月13日	県立歴史館	ふれあい歴史講座「柳沢遺跡を考える」	上田典男
6月13日	大町市教育委員会	「北安曇の山城について」	市川隆之
6月20日	県立歴史館	考古資料講座「山城を掘る」	河西克造
6月20日	御代田町公民館	御代田町公民館 グループ役員研修会	櫻井秀雄
7月2日	神社庁南佐久支部	神社庁南佐久支部連合大会講演会「遺跡からたどる古代の信仰 観—古墳時代を中心として—」	櫻井秀雄
7月3日	長野県長野養護学校	「弥生時代の人びとの暮らし」	柳澤 亮
7月4日	県立歴史館	ふれあい歴史講座「青銅器の取り上げと保存処理～その素材と 傷み方～」	白沢勝彦
7月11日	下関市立考古博物館	「信濃の弥生文化と柳沢遺跡の銅戈・銅鐸」	上田典男
7月11日	県立歴史館	ふれあい歴史講座「光り輝く青銅器～中野市柳沢遺跡～」	廣田和穂
7月11日	県立歴史館	ふれあい歴史講座「古墳時代の神まつり～長野県内の祭祀遺跡 をめぐって～」	櫻井秀雄
7月25日	県立歴史館	考古資料講座「黒曜石原産地を探る」	大竹憲昭

月 日	派遣先	内 容	担当者
8月7日	中野高井地区社会科研究会	「柳沢遺跡から考える弥生時代の北信濃」	廣田和穂
9月12～13日	総合地球環境学研究所	研究集会「信州の草原：その歴史をさぐる『八ヶ岳山麓・霧ヶ峰周辺における縄文・中世の陥し穴』	櫻井秀雄
9月26日	上田市真田公民館	公民館講座「上田小県地方の山城」	河西克造
11月7日	中野市柳沢区	柳沢遺跡の調査から見えるもの	綿田弘実
11月15日	黒曜石フォーラム実行委員会	「信州黒曜石フォーラム2009—黒曜石の研究はどこまで進んだか—」 事例報告「野尻湖遺跡群における黒曜石の産地推定分析結果」	大竹憲昭
11月15日	飯田市上郷考古博物館	秋季企画展講座「南信州における中世山城の全面調査～三遠南信自動車道建設に伴う飯田市鶯ヶ城跡の調査から～」	河西克造
11月21日～22日	春日井市教育委員会	春日井シンポジウム「東海を足元から探るⅡ～地域の歴史とまつり～」	川崎 保
11月29日	中野市立ヶ花区	沢田鍋土遺跡、立ヶ花遺跡の調査成果について	鶴田典昭
2月10日	飯田市立上久堅小学校	学校開放講座「鬼釜遺跡の調査成果と上久堅の古代史」	河西克造
2月13・14日	別府大学文化財研究所	文化財セミナー「球状耳飾研究の現状と課題」	川崎 保
2月27・28日	信濃川火焰街道協議会	フォーラム火焰街道往来2010「中部の火焰土器」	綿田弘実
2月28日	中野市立博物館	中野市遺跡発掘速報展 遺跡説明会 「川久保遺跡」「柳沢遺跡」「沢田鍋土遺跡」	市川隆之 廣田和穂 賛田 明

(5) 市町村・関係機関などへの協力

期 日	依頼元	協力・指導内容	担当者
5月23日	飯田市竜丘史学会	下村遺跡（鶯ヶ城跡）の見学	河西克造 曳地隆元
9月26日から 11月23日まで	長野県立歴史館	平成21年度秋季企画展「山を越え川に沿う」—信州弥生文化の確立— の共催	
5月25日	飯網町教育委員会	芋川氏館跡遺跡調査	白沢勝彦
6月8日	飯田市上郷「月よう会」	下村遺跡（鶯ヶ城跡）の見学	河西克造
6月12日	飯網町教育委員会	芋川氏館跡遺跡調査	市川隆之
7月8日	信州黒曜石フォーラム実行委員会 及び黒曜石原産地遺跡保有市町村 連絡会議の開催について	協議	大竹憲昭
7月30日	長野県立歴史館	金属器の修理について	白沢勝彦
7月30日	松本市教育委員会	松本市殿村遺跡出土土器・陶磁器の指導	市川隆之

期 日	依頼元	協力・指導内容	担当者
11月1日	博古研究会	2009年度研究発表会の後援	
11月9日	飯田市上郷「月よう会」	鬼釜遺跡の見学	河西克造
11月20日	長野県立歴史館	平成21年度考古資料保存処理講習会	
11月27日	佐久市教育委員会	中近世陶磁器の鑑定について	市川隆之
11月28日・29日	日本玉文化研究会	2009年日本玉文化研究会長野大会の後援	
1月19日	諏訪市神宮寺生産森林組合	武居城跡活用委員会	河西克造
2月5日	佐久市教育委員会	国史跡龍岡城跡保存整備委員会	河西克造
2月25日	筑北村教育委員会	筑北村民俗資料館の展示及び整備について	柳澤 亮

(6) 学校関係への協力・指導

期 日	学校名	内 容	対応職員
4月30日	長野市立朝陽小学校	6年生授業「弥生時代の人びとの暮らし」	柳澤 亮
8月17日～28日	金沢学院大学	インターンシップ	平林 彰
8月17日～28日	長野工業高等専門学校	インターンシップ	平林 彰
8月20・21日	通明小学校	考古学チャレンジ教室	平林 彰
10月20～22日	篠ノ井東中学校	職業体験	平林 彰
11月25・30日 12月2・7・ 9・14日	長野養護学校	職業体験 校外実習	平林 彰

(7) 資料の貸し出し

貸与先	貸与資料	貸与期間	備考
株式会社ニューサイエンス社	柳沢遺跡銅戈 集合・単体写真	メールで提供	デジタル写真 2枚
株式会社吉川弘文館	社宮司遺跡六角木幢・仏画写真	メールで提供	デジタル写真 2枚
中野市立博物館	柳沢遺跡シカ絵土器	5月15日～6月15日	土器 1点
株式会社雄山閣	駒込遺跡 縄文土器写真	掲載許可	
飯田市教育委員会	鷲ヶ城後出土品及び写真	8月27日～12月8日	遺物11点 写真等6点

貸与先	貸与資料	貸与期間	備考
長野県立歴史館	柳沢遺跡青銅器・玉類・土器・石器等 力石条里遺跡再葬墓土器	9月15日～12月1日	品目・数量の詳細は別途
株式会社新泉社	竹佐中原遺跡 地形・石器出土状況・石器写真	許可日～7月1日	カラーポジフィルム 3枚
千曲市教育委員会	東條遺跡 空中写真ほか	メールで提供	デジタル写真 6枚
千曲市森將軍塚古墳館	社宮司遺跡緑釉手付瓶出土状況写真	7月28日～8月25日	カラーポジフィルム 1枚
東京法令出版株式会社	柳沢遺跡銅戈 シカ絵単体写真	メールで提供	デジタル写真 2枚
株式会社ネクストパブリッシング	柳沢遺跡礫床木棺墓、銅鐸、銅戈写真	メールで提供	デジタル写真 3枚
長野県立歴史館	竹佐中原遺跡関連資料	10月20日～4月16日 デジタルデータは提供	A地点石器接合資料レプリカ 石器出土分布図デジタルデータ
中野市教育委員会	柳沢遺跡銅戈写真	メールで提供	デジタル写真 1枚
長野県立歴史館	上五明条里水田址関連写真	11月18日～12月25日	SK04 35mmポジ SB25 プロローニーポジ
一般社団法人日本考古学協会	柳沢遺跡銅戈写真	メールで提供	デジタル写真 1枚
長野市民新聞社	社宮司遺跡六角木幢	2次利用	デジタル写真1枚
八ヶ岳旧石器研究グループ	西一里塚遺跡ほか写真	メールで提供	デジタル写真7点
御代田町浅間縄文ミュージアム	西近津遺跡群ほか出土遺物及び写真	1月19日～2月19日	遺物8点 デジタル写真4点
中野市立博物館	月岡遺跡ほか出土品	2月16日～3月9日	千田遺跡7点 川久保遺跡7点 月岡遺跡3点

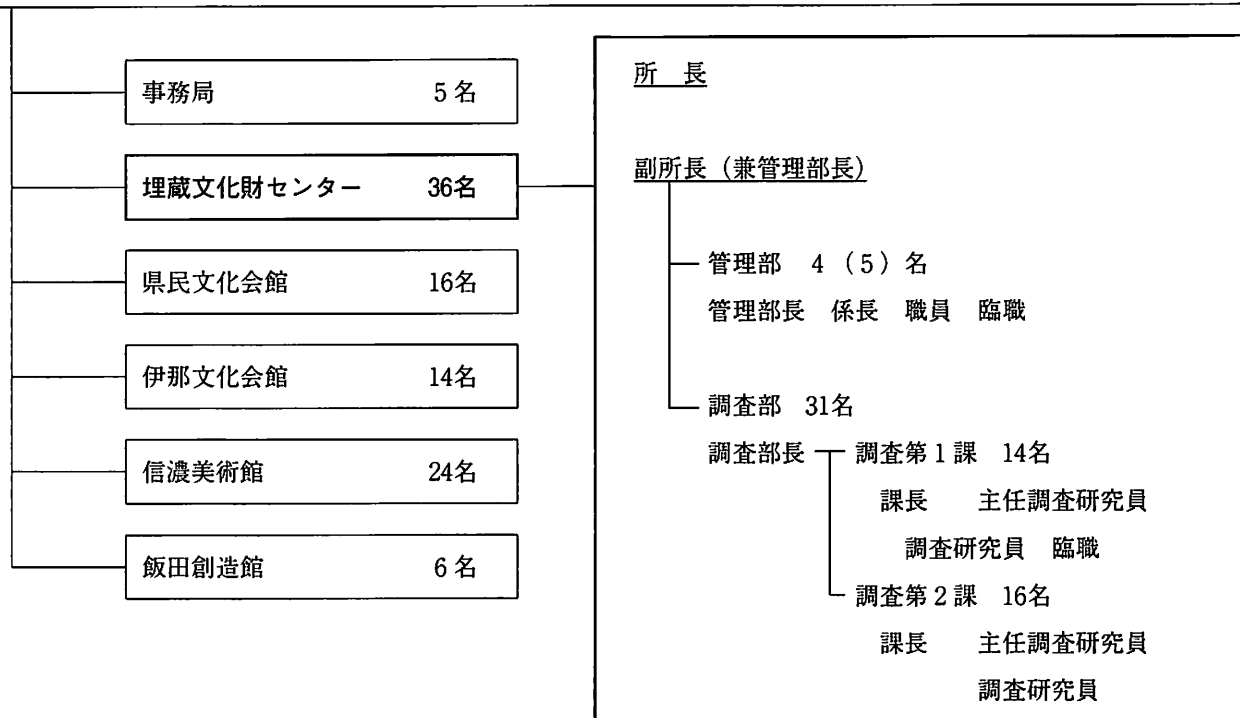
VI 組織・事業の概要

(1) 組織

財団法人長野県文化振興事業団

【役員】 10名

理事長	長野県副知事	副理事長	県芸術文化協会会長	常務理事	県企画部付
理事	県民文化会館長	伊那文化会館長	松本文化会館長	信濃美術館長	駒ヶ根高原美術館副館長
	サイトウ・キネン・フェスティバル松本総合コーディネーター				
監事	2名				



(2) 職員 (事務系臨時職員を除く)

H22. 3.10現在

所長	仁科松男	
副所長	阿部精一	
管理部	管理部長 (兼)	阿部精一
	管理係長	窪田秀樹
	職員	西澤宏明 戸谷良子
調査部	調査部長	平林 彰
	調査課長	〔第1課〕 上田典男 〔第2課〕 大竹憲昭
	主任調査研究員	〔第1課〕 綿田弘実 岡村秀雄 〔第2課〕 廣瀬昭弘
	調査研究員	〔第1課〕 白沢勝彦 市川隆之 河西克造 鶴田典昭 西 香子 廣田和穂 寺内貴美子 市川桂子 曳地隆元 〔第2課〕 寺澤正俊 上田 真 藤松慎一郎 若林 卓 中野亮一 藤原直人 櫻井秀雄 川崎 保 贅田 明 柳澤 亮 太田 潤 古賀弘一 内堀 団 清水梨代
	調査員	〔第1課〕 大沢泰智 鈴木時夫

(3) 事業

経費はH22. 3.10現在

事業名		委託事業者	事業個所	事業内容	経費(千円)	
受託事業	調	中部横断自動車道	国土交通省 関東地方整備局	佐久市 近津遺跡群ほか	発掘作業 整理作業	381,700
		一般国道474号 飯喬道路	国土交通省 中部地方整備局	飯田市 下村遺跡ほか	発掘作業 報告書刊行	65,738
		北陸新幹線	北陸新幹線建設局	長野市 沢田鍋土遺跡ほか	発掘作業 報告書刊行	57,569
	査	(主) 長野上田線	千曲建設事務所	坂城市 上五明条里水田址ほか	発掘作業	23,455
		一般国道18号 (更埴坂城バイパス)	国土交通省 関東地方整備局	千曲市 東條遺跡ほか	整理作業 報告書刊行	41,738
		替佐・柳沢築堤	国土交通省 千曲川河川事務所	中野市 柳沢遺跡ほか	整理作業	45,297
		(主) 長野上田線	千曲建設事務所	千曲市 力石条里遺跡群ほか	整理作業	28,920
研修	専門的知識技術の習得	県教育委員会	奈良文化財研究所	研修	218	
自主事業	速報展など	6月：速報展 長野県の遺跡発掘2009 長野県立歴史館 7月：速報展 長野県の遺跡発掘2009 長野県伊那文化会館 8月：夏休み考古学チャレンジ教室 2月：屋代市民ギャラリー展 3月：速報展 長野県の遺跡発掘2010 長野県立歴史館 随時：遺跡見学会				

長野県埋蔵文化財センター年報26 2009

発行日 平成22年3月26日

編集発行 (財)長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4

電話：026-293-5926 FAX：026-293-8157

E-mail：info@naganomaibun.or.jp

印刷 鬼灯書籍株式会社